目次

1 O&O AppBuster ユーザーガイド 2

2 最初の手順 5

2.1 主な機能 5

2.2 O&O AppBuster の無償ライセンス 8

2.3 システム要件 10

2.4 最初の操作 12

3 機能 17

3.1 アプリ一覧 17

3.2 スマートビュー 24

3.3 推奨事項 27

3.4 アプリを削除する 30

3.5 アプリのインストール 34

3.6 更新 36

3.7 システムの復元ポイント 39

4 アプリのカテゴリー 41

4.1 アプリの種類 41

4.2 Windows アプリ 44

4.3 デスクトップアプリ 47

4.4 非表示のアプリ 50

4.5 システムアプリとフレームワーク 52

4.6 孤立したアプリ 54

4.7 破損したアプリ 57

4.8 新しく検出されたアプリ 60

5 設定 62

6 用語集 67

7 トラブルシューティング 70

8 よくある質問 76

9 サポートと O&O の関連製品 82

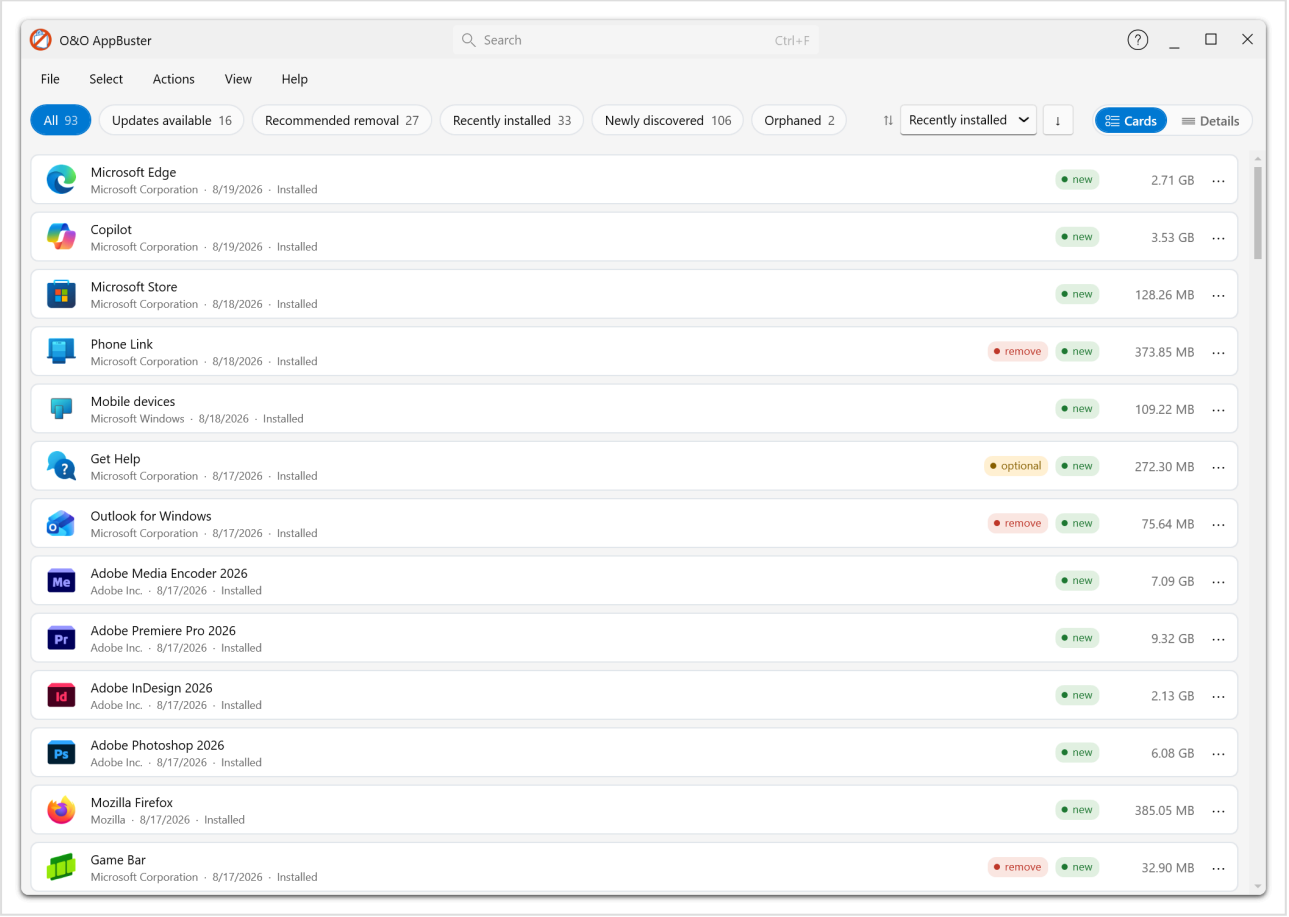
O&O AppBuster ユーザーガイド

O&O AppBuster は、O&O Software GmbH が提供する Windows 10／11 向けの無償アプリ管理ツールです。本書の画面例には英語版を使用しています。本文の操作名は日本語版に対応しています。

O&O AppBuster でできること

Windows には使わないアプリがあらかじめ入っていることがあります。インストールや更新、削除の後にファイルや登録だけが残ることもあります。O&O AppBuster は Windows アプリ、デスクトッププログラム、システムコンポーネント、残存項目をひとつの一覧にまとめ、何を残すか判断できるようにします。

Windows の「アプリと機能」に出ない非表示のアプリや不完全な登録も検出します。結果は種類別に分類され、各アプリに推奨が表示されます。



一覧の上のスマートビューのボタンで、目的に合ったアプリを表示します。

主な特長

- **ひとつの一覧で確認**：Windows アプリ、デスクトッププログラム、非表示のアプリ、残存項目をまとめて確認できます。

- **推奨を参考に判断**：「キープ」「任意」「取り除く」の表示が選択の目安になります。
- **Windows に削除操作のないアプリを整理**：一部のプリインストールアプリは、Windows にアンインストールボタンがなくても削除できます。
- **必要に応じて復旧**：PC にパッケージが残る Windows アプリは再登録できます。作業前にシステムの復元ポイントも作成できます。
- **残存項目を削除**：再インストールを妨げる孤立した登録や壊れたインストーラー登録を整理できます。
- **すべての機能が無償**：有償エディション、試用期間、機能制限はありません。

できること

削除と再インストール

Windows アプリは自分のアカウント、全ユーザー、ファイルを含む PC 全体の範囲で削除できます。パッケージが PC に残っていれば、後で再インストールできます。

➡️ アプリの削除 ・ アプリのインストール

一覧を絞り込む

スマートビューを選ぶと、削除候補、過去 30 日のインストール、前回以降に検出したアプリ、更新のあるアプリ、過去のアンインストールで残った項目などに絞り込めます。

➡️ スマートビュー ・ アプリの種類

操作前に内容を確認する

発行元、バージョン、インストール日、最終使用日、容量、インストール先、対象ユーザーなどを確認できます。推奨と種類を併せて判断してください。

➡️ 推奨事項 ・ アプリ一覧

アプリの残存項目を整理する

アンインストール後に残った孤立項目や、削除や再インストールを妨げるインストーラー登録を検出し、関連するレジストリキーやフォルダーを整理できます。

➡️ 孤立したアプリ ・ 破損したアプリ

無償ライセンス

O&O AppBuster は**フリーウェア**です。台数の制限なく使用でき、改変せずに配布できます。Professional、Premium、Enterprise などの上位版はなく、ダウンロードしたプログラムにすべての機能が含まれています。

インストールは不要です。単一の実行ファイルをダウンロードして起動し、不要になったら削除します。

> **O&O の関連製品**
>
> 終了時の案内から関連製品を確認したり、無料のニュースレターに登録したりできます。**ヘルプ**メニューからも開けます。サポートと O&O の関連製品を参照してください。

本書の使い方

サイドバーから目的の項目を選びます。

- **はじめに**：製品の概要、無償ライセンス、動作環境、初回の操作を説明します。
- **機能**：一覧、スマートビュー、推奨、インストールと削除、更新、復元ポイントを説明します。
- **アプリの種類**：各分類の意味と削除前の注意点を説明します。
- **設定**：設定画面、構成ファイル、コマンドラインパラメーターを参照できます。
- **用語集**：本書で使用する用語を説明します。
- **トラブルシューティング**：よくある問題の原因と対処法を説明します。
- **よくある質問**：よく寄せられる質問に答えます。
- **サポートと O&O の関連製品**：問い合わせ先と関連製品を紹介します。

主な機能

目的の作業に使えるかを確認するための機能一覧です。

管理できるアプリ

Windows が保持する各種のアプリ登録を検出し、ひとつの一覧にまとめます。

種類	例	削除の可否
Windowsアプリ（ストア／UWP）	天気、ニュース、Clipchamp、Copilot、Solitaire Collection	削除可
デスクトップアプリ（Win32／MSI）	セットアップファイルから導入した従来型プログラム	専用アンインストーラーで削除可
隠しアプリ	PC にあり、自分のアカウントには未登録の Windows アプリ	削除または自分のアカウントにインストール可
システムアプリ	Windows の動作に必要なコンポーネント	表示のみ
フレームワークアプリ	ほかのアプリが使う VCLibs、.NET Native などのランタイム	表示のみ
孤立したアプリ	アンインストール済みソフトウェアの残存項目	残存項目を削除可
破損したアプリ	パッケージ欠落により Windows から削除できない MSI アプリ	直接削除可

分類の詳細はアプリの種類を参照してください。

基本機能

削除

- 1 件のアプリも複数のアプリも、まとめて削除を開始できます。
- Windows アプリの **削除の適用範囲** は、自分のアカウント、全ユーザー、ディスク上のファイルを含む PC 全体から選べます。
- デスクトップアプリには製品専用のアンインストーラーを使用します。
- 使用中のファイルは、プログラムを終了して削除する、再起動時に削除する、スキップする、のいずれかで扱います。
- 削除できなかったアプリは別に表示され、再試行できます。

- 削除結果をファイルに保存できます。

➡️ アプリの削除

インストール

PC にファイルがあり、自分のアカウントに未登録の Windows アプリは、O&O AppBuster から自分のアカウントに登録できます。以前自分のアカウントからだけ削除したアプリもこの方法で戻せます。

➡️ アプリのインストール

推奨事項

アプリには 3 段階の推奨が表示されます。

推奨	意味
キープ	保持を勧めます。明確に分類されていないアプリにもこの判定が付きます。
任意	削除しても差し支えなく、使うかどうかに応じて判断します。
取り除く	ほかのアプリが依存していない、典型的な不要アプリです。

➡️ 推奨事項

スマートビュー

一覧の上に「すべて」「利用可能な更新」「削除推奨」「最近インストール」「新規検出」「非表示」「孤立」「不具合」「システム」「フレームワーク」などの絞り込みボタンが並びます。該当件数がゼロの分類は表示されません。

➡️ スマートビュー

一覧の表示形式

- **カード**：アプリごとにアイコンと名前、その下に主要な情報をまとめて表示します。
- **詳細**：表示する列を選び、列単位で並べ替えられる表形式です。

選んだ形式は次回の起動時にも引き継がれます。

➡️ アプリ一覧

winget による更新

Windows パッケージ マネージャー（`winget`）があれば、デスクトップアプリの新しいバージョンをバックグラウンドで確認し、必要なものをインストールできます。

➡️ 更新

前回からの変更を確認する

前回利用時の一覧と比較し、その後に追加されたアプリを **新規検出** に表示します。Windows の更新で復活したアプリや、別のインストーラーが追加したものを確認できます。

➡️ 新しく検出されたアプリ

変更前の備え

変更前にシステムの復元ポイントを手動で作成できます。各セッションの最初の変更前にも作成の確認が表示されます。

➡️ システムの復元ポイント

詳細とプロパティ

アプリごとに収集した情報を確認してクリップボードにコピーしたり、インストール先をエクスプローラーで開いたりできます。

➡️ アプリ一覧

機能の範囲

次の点にご注意ください。

- **Windows のプライバシーやテレメトリ設定は変更しません。** この用途には別製品 O&O ShutUp10 があります。サポートと O&O の関連製品を参照してください。
- **PC のデフラグやシステムの最適化は行いません。**
- **常駐しません。** プログラムを閉じるとバックグラウンド動作も終了します。
- **システムアプリとフレームワークは削除できません。** Windows などが必要とするため表示のみです。
- **個別の削除を取り消すボタンはありません。** Windows アプリは条件が合えば再インストールでき、復元ポイントを使うとシステムを以前の状態に戻せます。

対応言語

プログラムの表示言語は英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、日本語、中国語です。設定画面から変更できます。

本書は日本語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語（ブラジル／ポルトガル）で利用できます。

O&O AppBuster の無償ライセンス

O&O AppBuster は**フリーウェア**です。すべての機能を無償で利用できます。利用条件は次のとおりです。

利用条件一覧

価格	無料。
エディション	1 種類。無料版と Pro 版の区別はなく、すべての機能が含まれます。
使用期限	期限や試用期間はありません。
PC の台数	制限はありません。
再配布	プログラムを改変しない限り配布できます。
登録	アカウント、ライセンスキー、メールアドレスは不要です。
同梱ソフトウェア	ほかのソフトウェアは同梱していません。
広告	作業中の広告はありません。終了時に関連製品やニュースレターを案内する画面が出ることがあり、自動表示は無効にできます。

> **有償版はありません**
>
> ほかの O&O 製品には無料版と Premium 版を区別するものがありますが、**O&O AppBuster に Premium 版はありません。** 本書の機能はすべて無償です。「O&O AppBuster Pro」などを販売するサイトは O&O のものではありません。

インストール不要

単一の実行ファイルを使います。

1. O&O AppBuster の製品ページからダウンロードします。
2. ファイルを実行します。
3. 不要になったらファイルを削除します。

設定はユーザープロファイルの次の場所に保存されます。

```
%LocalAppData%\OO Software\OO AppBuster\OOAppBuster.cfg
```

ログを有効にした場合は同じ場所に `OOAppBuster.log` が作成されます。設定とログは削除できます。設定を削除した場合、次回は既定値で起動します。

USB メモリからも実行できるので、新しい PC の設定やほかの人の PC の整理にも利用できます。

第三者が追加したソフトウェアにご注意ください

公式の O&O AppBuster に追加ソフトウェアは付属しません。プログラムのバージョン情報にも、次の趣旨が記載されています。

> 本製品は無償のフリーウェアで、任意の台数の PC で使用、再配布できます。インストールは不要で、ほかのソフトウェアは同梱していません。

ダウンロードサイトのインストーラーがツールバーや「PC 最適化」製品などを勧める場合は、第三者が利用条件に反して再包装したものです。

公式サイトから入手する

www.oo-software.com からダウンロードしてください。別のサイトで同梱版を入手した場合は、対応できるよう配布元をお知らせください。

無償で提供する理由

O&O Software は 1997 年からベルリンで Windows 用のシステムソフトウェアを開発しています。O&O Defrag、O&O DiskImage、O&O ShutUp10 などを開発する O&O の製品を知っていただけるよう、用途を絞った O&O AppBuster を無償で提供しています。

関連製品については、O&O AppBuster の製品案内から確認できます。

O&O のほかの製品を探す

終了時の別ウィンドウから、バックアップ、システム最適化、データ復旧、プライバシー、安全な消去、リモート管理用の製品を紹介するページや、無料ニュースレターの登録フォームを開けます。サポートと O&O の関連製品を参照してください。

使用許諾契約

利用には O&O Software のエンドユーザー使用許諾契約が適用されます。**ヘルプ → このアプリについて** または O&O Software のウェブサイトで確認できます。

アプリの削除ではレジストリやファイルも変更します。初めて多数の項目を整理する場合は、アプリの削除を読み、システムの復元ポイントを作成してください。

システム要件

O&O AppBuster が必要な情報を取得してアプリを管理するための要件は次のとおりです。

オペレーティングシステム

対応	Windows 10／11（全エディション）。
アーキテクチャ	64 ビット（x64）および ARM64。
非対応	Windows 8.1 以前、Windows Server。

古いバージョンの Windows は、O&O AppBuster が対象とする新しいアプリ基盤を備えていません。

ランタイム

.NET 8 デスクトップアプリです。必要なランタイムは同梱されており、別途インストールする必要はありません。

管理者権限

起動には**管理者権限**が必要です。Windows のユーザー アカウント制御（UAC）で **はい** を選びます。

次の操作には昇格した権限が必要です。

- Windows アプリを全ユーザーまたは PC 全体から削除する。
- デスクトップアプリをアンインストールする。
- 孤立したアプリや破損したアプリのレジストリ項目とフォルダーを削除する。
- システムの復元ポイントを作成する。

起動時に権限を確認することで、操作ごとではなくセッションごとに 1 回の UAC 確認で済みます。

> **管理者権限がない場合**
>
> 管理者権限なしでは起動できません。組織が管理する業務 PC では、ソフトウェアを削除する前に管理者に相談してください。

ディスク容量

プログラム本体は数 MB の単一実行ファイルです。設定と、有効にした場合のログをユーザープロファイルの次の場所に保存します。

```
%LocalAppData%\OO Software\OO AppBuster\
```

アプリを削除すると空き容量が増えます。アプリごとの使用量は一覧の**ストレージ**列で確認できます。

任意：Windows パッケージ マネージャー（winget）

更新機能では Windows パッケージ マネージャー（`winget`）を使用します。Microsoft Store の「アプリ インストーラー」に含まれ、現在の Windows 11 には標準でインストールされています。

- `winget` があれば、インストール済みのデスクトップアプリの更新を検索し、適用できます。
- 見つからない場合は更新機能だけが無効になり、その理由が設定画面に表示されます。ほかの機能は通常どおり使えます。

使用するには Microsoft Store から**アプリ インストーラー**を追加してください。

➡️ 更新

任意：システムの保護

復元ポイントを作成するには、システムドライブで Windows の**システムの保護**を有効にします。無効の場合は、O&O AppBuster に有効化の案内が表示されます。

コントロール パネル → システムとセキュリティ → システム → システムの保護でドライブ `C:` を選び、**構成**を開きます。

復元ポイントなしでも続行できますが、初回の大規模な整理前は作成をお勧めします。

➡️ システムの復元ポイント

最初の操作

O&O AppBuster をダウンロードし、PC にあるアプリを確認して、最初のアプリを削除するまでの手順です。所要時間は約 10 分です。

1. ダウンロードして起動する

1. O&O Software のウェブサイトから O&O AppBuster をダウンロードします。
2. ダウンロードした実行ファイルを開きます。インストールは不要です。
3. Windows のユーザー アカウント制御（UAC）で **はい** を選びます。

> **管理者権限が必要な理由**
>
> アプリや残存項目の削除、復元ポイントの作成には管理者権限が必要です。起動時に一度確認するため、各操作で繰り返し求められません。システム要件を参照してください。

2. スキャンの完了を待つ

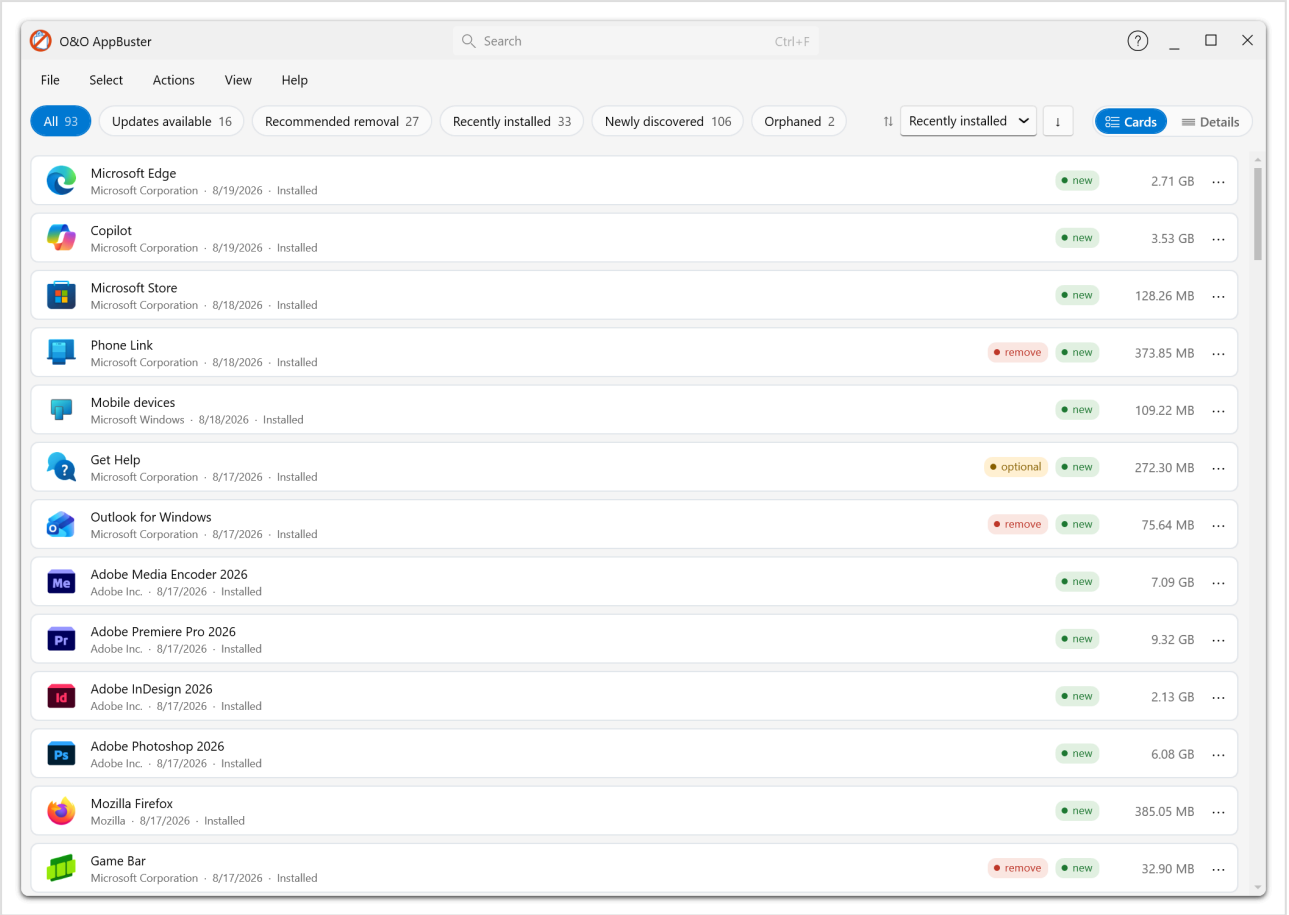
起動すると PC 上のアプリの検出が始まり、一覧の上に検出件数が表示されます。

通常は数秒ですが、デスクトッププログラムが多い環境ではより時間がかかります。容量はバックグラウンドで集計されるため、一覧の表示後もしばらく**ストレージ**の値が更新されます。

3. 一覧の見方を確認する

スキャンが終わると、メインウィンドウに一覧と次の操作項目が表示されます。

- 一覧上部の件数付きボタンはスマートビューです。ボタンを選ぶと、表示件数に該当する分類だけに絞り込めます。
- 右側の**カード**／**詳細**で表示形式を切り替えます。カードはアプリごとに読みやすく、詳細では列ごとに情報を比較、並べ替えできます。
- 隣の**並べ替え**で名前、容量、インストール日などの順に並べます。
- **表示 → アプリ情報** でアプリごとに表示する情報を選びます。



一覧の上に、件数付きのスマートビュー、並べ替えボタン、カード／詳細の切り替えがあります。

➡️ アプリ一覧

4. システムの復元ポイントを作成する

最初の変更前に復元ポイントを作成してください。必要なコンポーネントを削除してしまった場合に、システムを戻す手段になります。

1. **操作 → システムの復元ポイントを作成** を選びます。
2. 確認画面で作成を実行します。
3. 作成中の表示が消えるまで待ちます。

各セッションの最初の変更前にも、復元ポイントを作成するか確認されます。

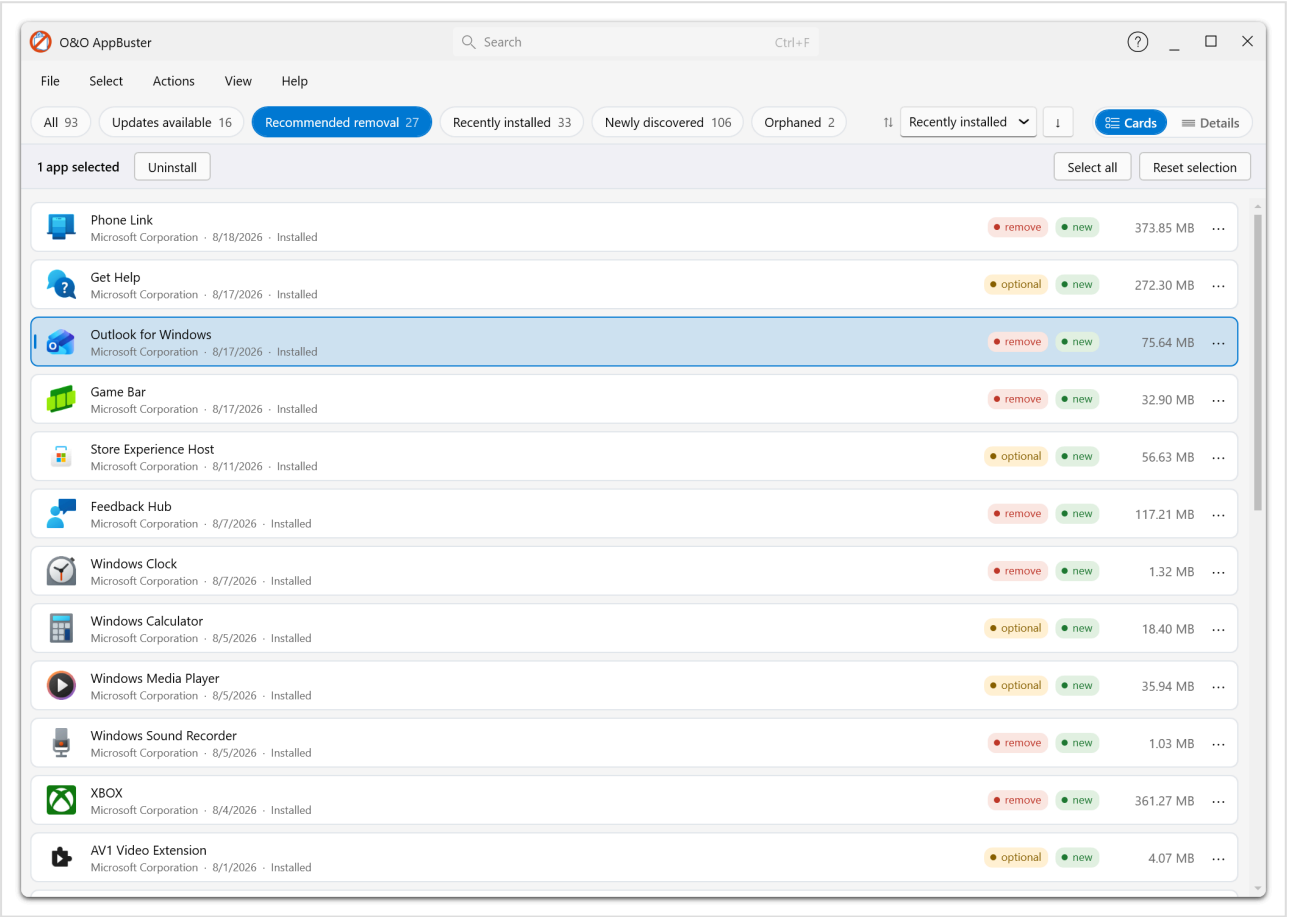
> **初回の整理前には作成をお勧めします**
>
> Windows のシステム保護が無効な場合は、有効にする方法が表示されます。作成せずに進むこともできますが、初回は保護をオンにしてから続けてください。

➡️ システムの復元ポイント

5. 推奨を手がかりに選ぶ

初めて整理するときは、O&O AppBuster が示す削除候補から確認します。

1. 一覧の上で **削除推奨** をクリックします。「取り除く」または「任意」と判定されたアプリが表示されます。
2. プリインストールのゲーム、ニュース、天気など、追加アプリの中に不要なものがあるか確認します。
3. 「取り除く」のアプリをすべて選択するには **選択 → 削除を推奨するアプリをすべて選択する** を選びます。
4. 残したいアプリのチェックを外します。



「削除推奨」には「取り除く」と「任意」の両方が含まれます。選択前に各アプリを確認してください。

> **推奨は判断の目安です**
>
> 「取り除く」は、ほかのアプリが依存していないという意味です。毎朝使う天気アプリなど、必要なものは残してください。

➡️ 推奨事項

6. 選択したアプリを削除する

1 件以上選択すると、一覧の上の操作バーに選択中の件数が表示されます。

1. **アプリをアンインストールする** をクリックします。
2. 確認画面で削除対象を見直します。**すべて確認** › をクリックすると全件を確認できます。
3. **削除の適用範囲** を選びます。

範囲	動作
現在のユーザー	自分のアカウントからだけ削除します。
全ユーザー	PC 上の全アカウントから削除します。
PC 全体（ファイルを含む）	全アカウントから削除し、ディスク上の残存ファイルも削除します。最も徹底した方法です。

4. **アプリを削除する** をクリックします。

進行状況の画面に処理中のアプリが表示されます。終了すると削除件数と、スキップしたアプリがあればその名前と理由が表示されます。

> **デスクトップアプリの場合**
>
> 範囲を指定できるのは Windows アプリです。デスクトップアプリは**専用のアンインストーラー**で削除します。別の画面が開いたら、表示される質問や確認に応答してください。

➡️ アプリの削除

7. スキップされた項目を確認する

ファイルが使用中などの理由で、すぐに削除できないことがあります。

結果画面ではスキップしたアプリが別に表示され、次の操作を選べます。

- **これらのプログラムを終了して削除**：ファイルを使用しているプログラムを終了して再試行します。
- **次回の再起動時に削除**：次回 Windows 起動時にファイルを削除します。
- **このアプリをスキップ**：このアプリをそのまま残します。
- **スキップした項目を再試行**：スキップしたアプリをもう一度処理します。
- **ログを保存…**：削除の記録をファイルに保存します。

8. 必要に応じて残存項目を整理する

過去のアンインストールなどで残った項目があると、次のボタンが表示されます。

- **孤立**：インストールされていないアプリの登録情報やデータフォルダー。
- **不具合**：インストーラーパッケージが欠落し、Windows から削除や修復ができないアプリ。

通常の削除と同じ手順で処理できます。実行前に、該当する種類の注意事項と各項目のプロパティを確認してください。

➡️ 孤立したアプリ・破損したアプリ

9. 必要に応じて更新する

Windows パッケージ マネージャーがある場合は、**利用可能な更新** で新しいバージョンがあるアプリを確認できます。対象を選んで **アップデート** をクリックします。

➡️ 更新

10. 終了する

F5 で一覧を更新して結果を確認し、プログラムを閉じます。

終了後の常駐処理はありません。今回のアプリ構成が記録され、次回は新しく見つかったアプリが **新規検出** のスマートビューに表示されます。

> **Windows の更新後にも確認する**
>
> 機能更新で削除したアプリが復活することがあります。大きな更新の後は O&O AppBuster を開いて **新規検出** を確認してください。

次に読む項目

- 各種類の意味と削除前の注意点はアプリの種類をご覧ください。
- 表示言語や配色、ログを変更するには設定をご覧ください。
- 予期した結果にならない場合はよくある質問をご覧ください。

アプリ一覧

メインウィンドウには、この PC で検出されたアプリが表示されます。フィルター、並べ替え、メニューを使って目的のアプリを探し、操作できます。

アプリの検出

O&O AppBuster を開くとスキャンが始まります。見つかったアプリが順次一覧に追加され、上部には検出数が表示されます。スキャンが終わると、件数表示に代わってスマートビューの絞り込みボタンが表示されます。

ディスクの使用量はその後バックグラウンドで計算されます。一覧が表示されてから各アプリの**ストレージ**欄に値がそろうまで、数秒かかる場合があります。

再スキャンするには **F5** を押すか、**ファイル → 更新** を選びます。起動中にアプリがインストールされた場合は、自動的に一覧が更新されます。

カード表示と詳細表示

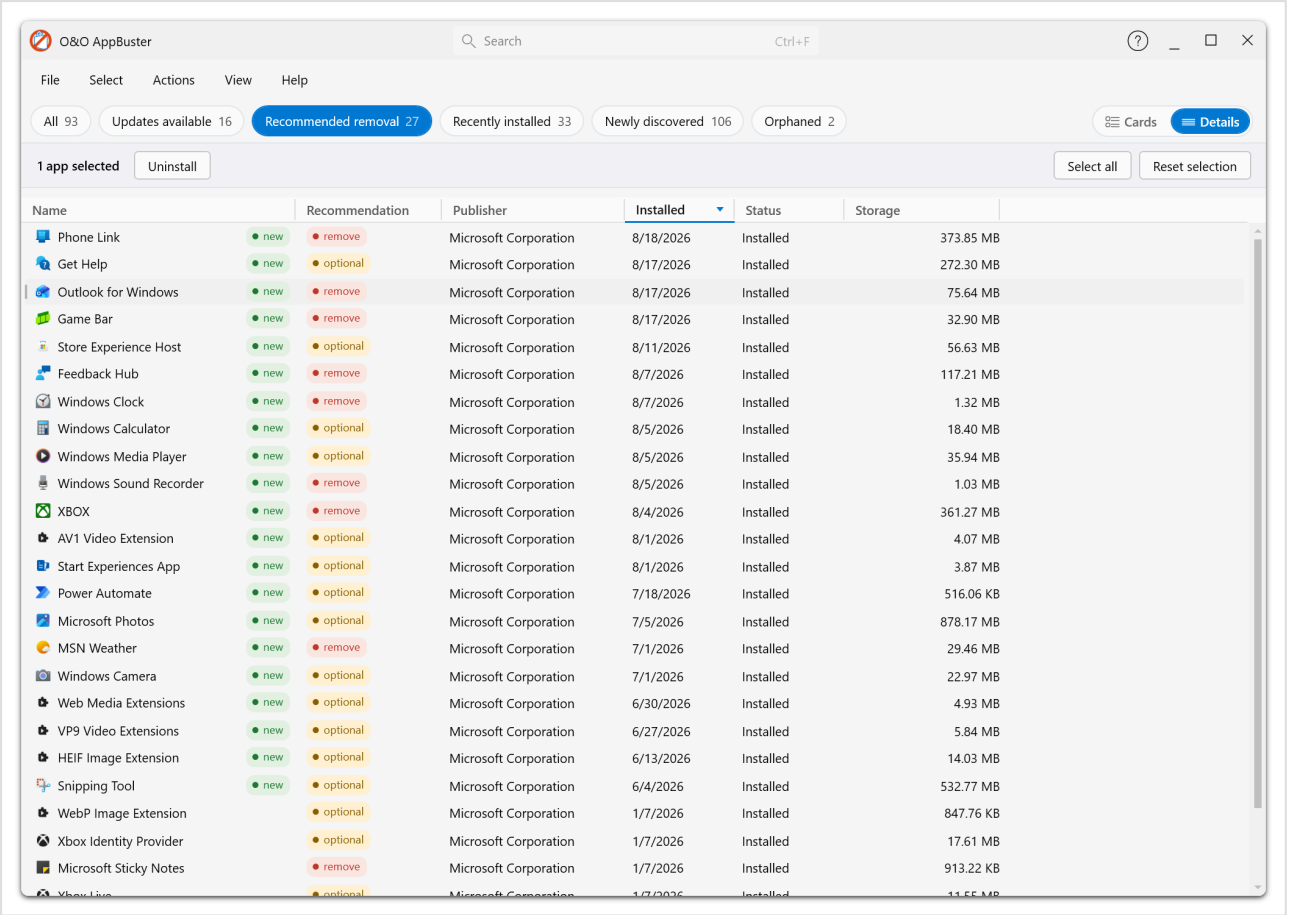
一覧の右上で表示形式を切り替えられます。選択した形式は次回の起動時にも使用されます。

カード

標準の表示形式です。アプリごとにアイコンと名前が横一列に並び、その下に **表示 → アプリ情報** で選んだ情報が表示されます。

詳細

アプリの情報が項目別の列に表示されます。列ごとに並べ替えられるので、複数のアプリのディスク使用量などを比較できます。



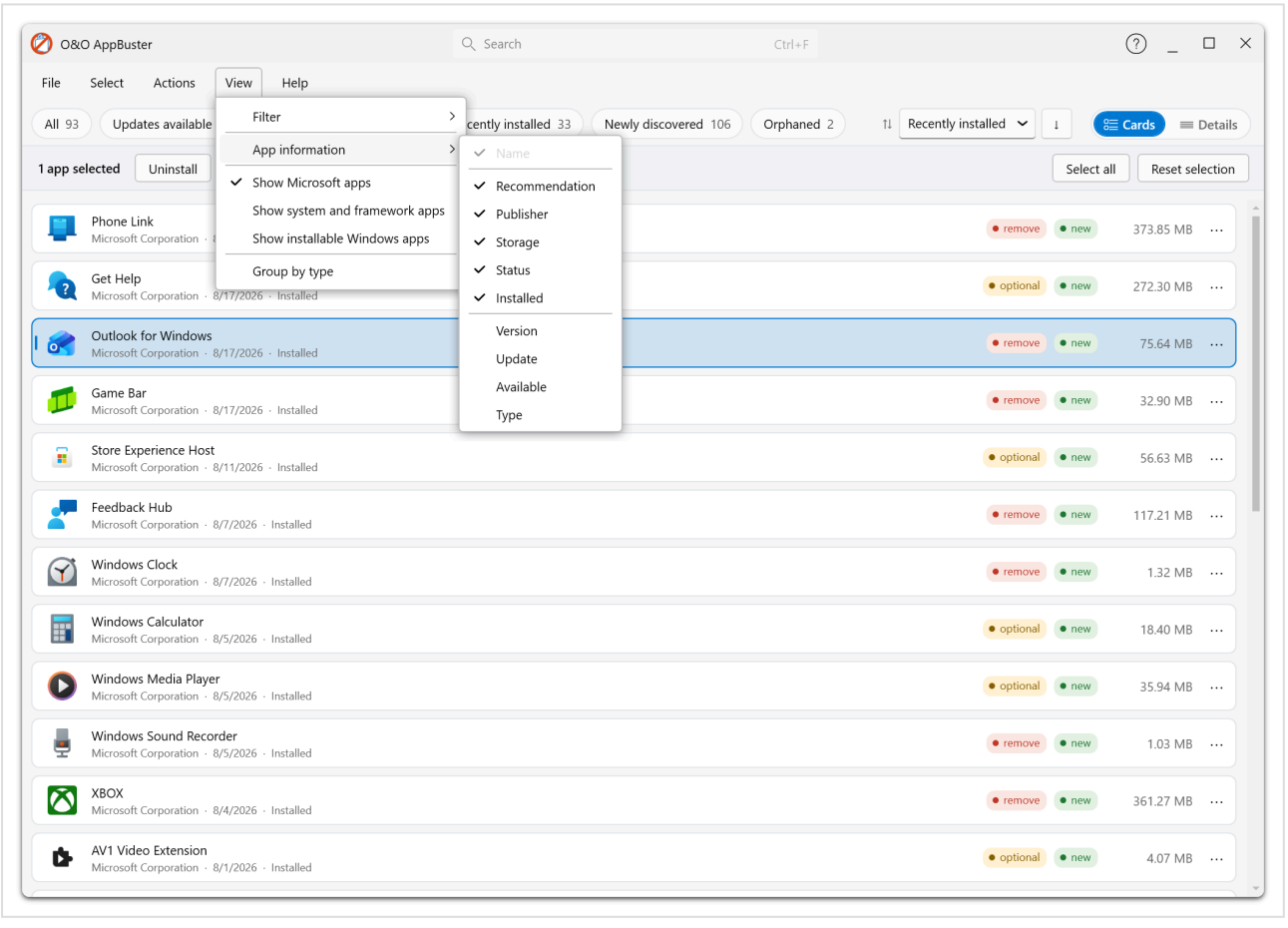
詳細表示では、情報の種類ごとに列が分かれ、各列で並べ替えられます。

どちらの表示形式でも、対象のアプリと利用できる操作は同じです。

アプリごとに表示する情報を選ぶ

表示 → アプリ情報 で選んだ項目は、詳細表示では列として、カード表示ではアプリ名の下に表示されます。設定は両方の形式に共通です。

項目	内容
名称	アプリの表示名。常に表示されます。
推薦	アプリを残すか、任意とするか、削除を勧めるかを示します。推奨事項を参照してください。
発行元	アプリの発行元。
ストレージ	アプリ本体とアプリデータがディスク上で占める容量。
ステータス	インストール済み、インストール可能、ステージング済み（未インストール）、削除不可のいずれか。
インストール済み	アプリをインストールした日付。
バージョン	インストールされているバージョン番号。
アップデート	winget で新しいバージョンを入手できるかを示します。更新を参照してください。
利用可能	インストールの対象。このアカウント、複数のユーザー（人数を表示）、またはコンピューター全体。
タイプ	アプリの分類。アプリの種類を参照してください。



「表示」→「アプリ情報」で、詳細表示の列とカード内に表示する情報を選びます。

一覧を並べ替える

表示切り替えの隣にある並べ替えボタンで、次の基準を選択できます。

最近インストールした順（既定、新しい順）、*名称*、*ストレージ*、*発行元*、*推薦*、*バージョン*、*ステータス*、*利用可能*、*タイプ*、*更新の有無*

隣のボタンで昇順と降順を切り替えます。詳細表示で列見出しをクリックすると、その列が並べ替えの基準になり、ボタンの表示にも反映されます。

> **容量の大きなアプリを探す**
>
> **ストレージ**で並べ替えると、容量を多く使用しているアプリを特定できます。**削除推奨** と組み合わせれば、削除してまとまった空き容量を確保できる候補が見つかります。

一覧を検索する

タイトルバーの検索欄に数文字入力します。入力するたびに、アプリの**名前**と**説明**を対象に一覧が絞り込まれます。

現在のスマートビューに該当するアプリがなく、別のビューに該当するアプリがある場合は、最初に結果が見つかったビューに切り替わります。どのビューにも見つからなければ、その旨が表示されます。

検索欄を空にすると一覧全体に戻ります。

タイプ別グループ

表示 → タイプ別グループ を選ぶと、現在のビューに含まれる種類ごとに一覧の上にタブが表示されます。タブを選ぶと、ほかのフィルターを維持したまま、その種類だけを表示できます。

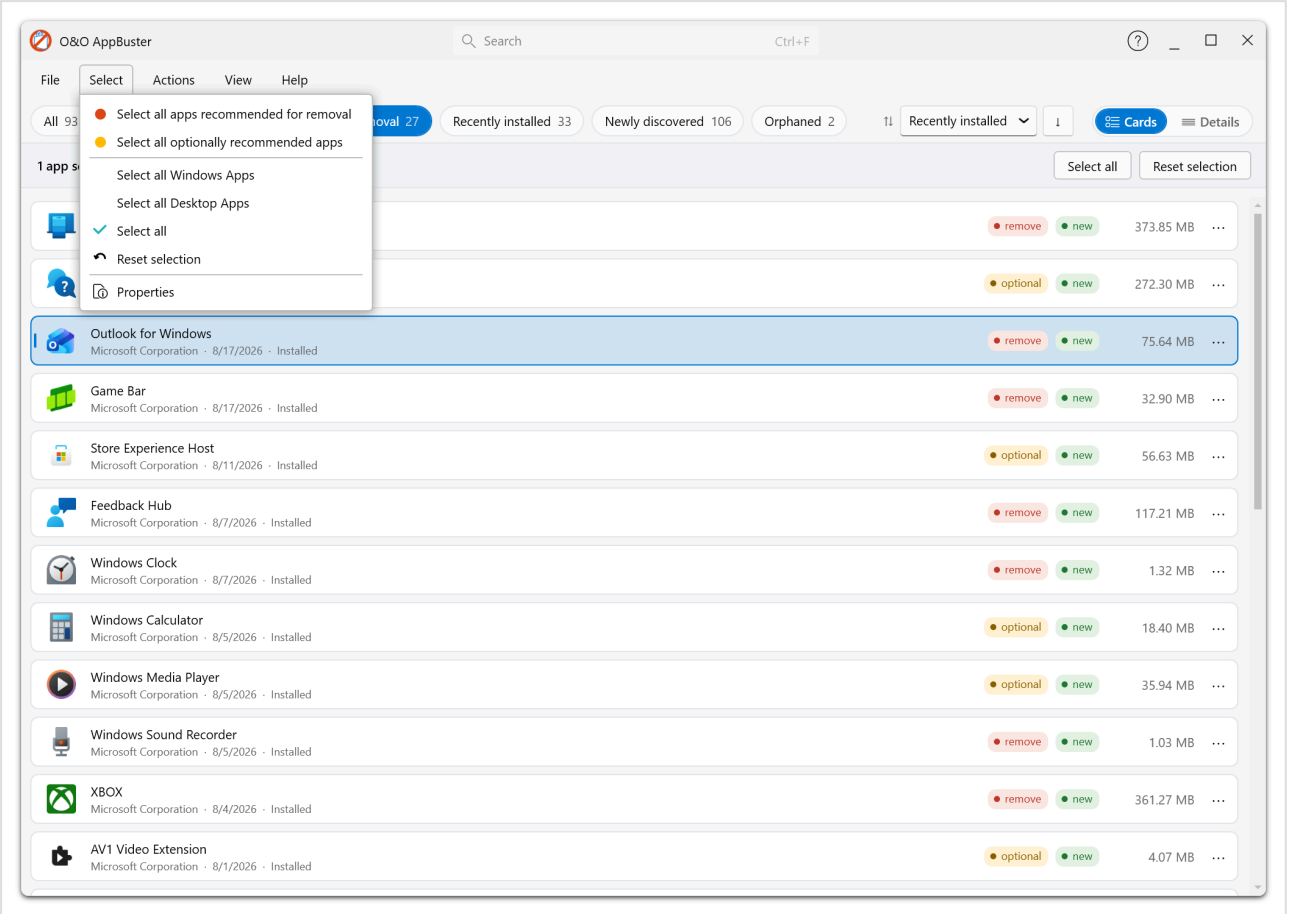
アプリを選択する

アプリのチェックボックスをオンにします。1 件以上選択すると一覧の上に操作バーが表示され、選択件数、**アプリをアンインストールする**、対象がある場合は **アップデート**、さらに **すべて選択** と **すべて選択解除** が表示されます。

選択 メニューでは次の条件で一括選択できます。

- 削除を推奨するアプリをすべて選択する
- オプションで推奨されるアプリをすべて選択する
- すべてのWindowsアプリを選択
- すべてのデスクトップアプリを選択
- すべて選択

- すべて選択解除



「選択」メニューでは、推奨事項や種類に該当するアプリをまとめて選択できます。

個別のアプリを操作する

アプリを右クリックするか、行内のボタンを押します。利用できる操作はアプリによって異なります。

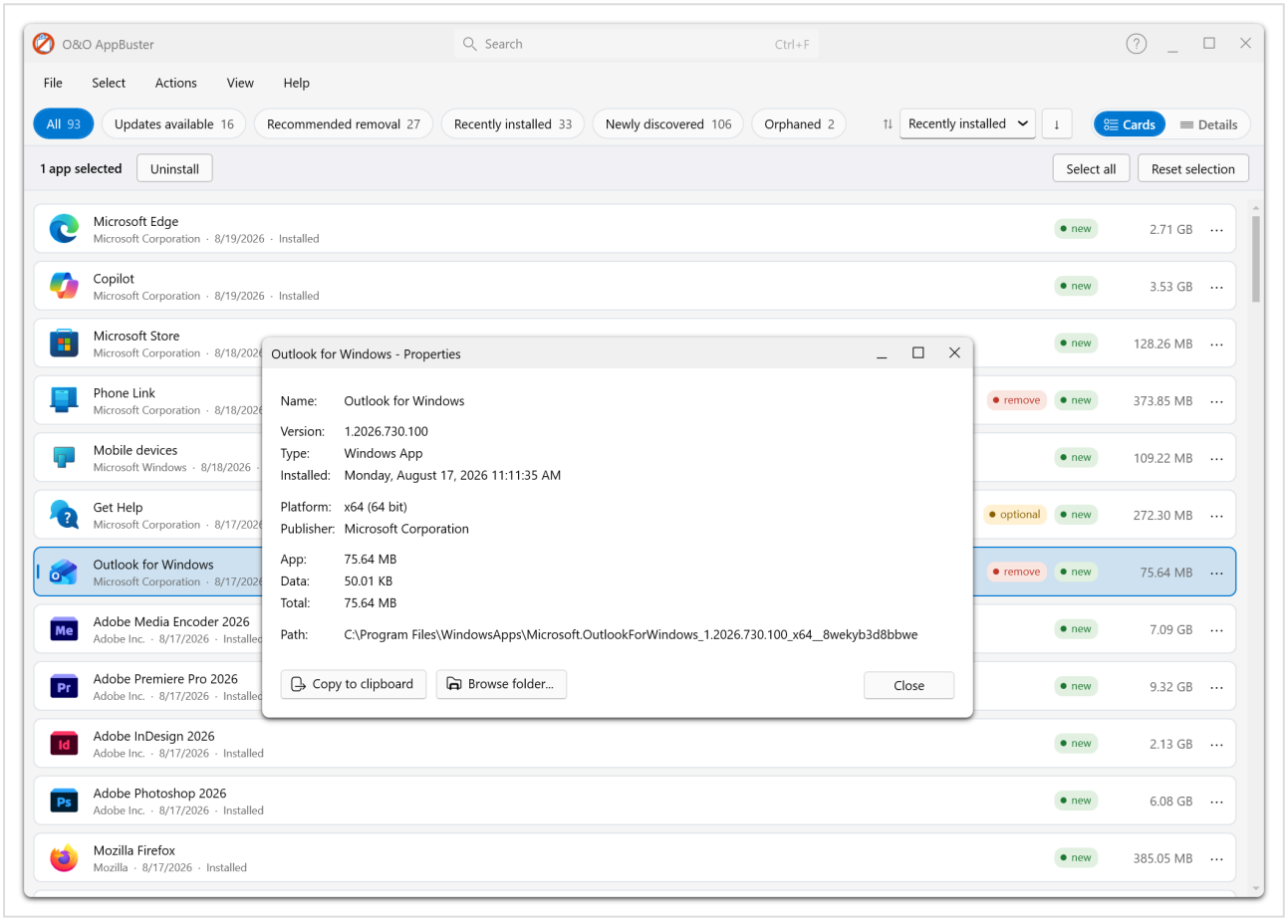
操作	対象
アプリをアンインストールする	削除できるアプリ。
インストール	PC にファイルがあり、現在のアカウントにはインストールされていない Windows アプリ。
アップデート	winget で新しいバージョンが見つかったアプリ。
変更	インストーラーに修復または構成変更の機能があるデスクトップアプリ。
プロパティ	すべてのアプリ。

操作 メニューには、選択したアプリの全情報をコピーする **クリップボードにコピー** と、インストール先をエクスプローラーで開く **フォルダを参照...** もあります。

プロパティを確認する

プロパティ を開くと、次の情報が表示されます。

- 名前、種類、インストール日
- バージョンとプラットフォーム（x86、x64、ARM、ARM64、アーキテクチャ非依存）
- 発行元
- 容量（アプリ本体とアプリデータの内訳、およびその合計）
- インストール先



プロパティにはバージョン、種類、インストール日、プラットフォーム、発行元、容量の内訳、インストール先が表示されます。これらの情報はクリップボードにコピーできます。

孤立したアプリでは、残存項目から推定した名前、元の識別子、推定されるベンダーと製品系列、用途、判定の確度も表示されます。孤立したアプリを参照してください。

表示された情報は、調査やサポートへの問い合わせに使えるよう、クリップボードにコピーできます。

非表示件数の通知

表示 の一部の設定は、現在のビューにかかわらず対象のアプリを一覧から隠します。たとえば Microsoft 製アプリの表示をオフにした場合です。この設定で実際にアプリが非表示になっていると、一覧の上に件数が表示

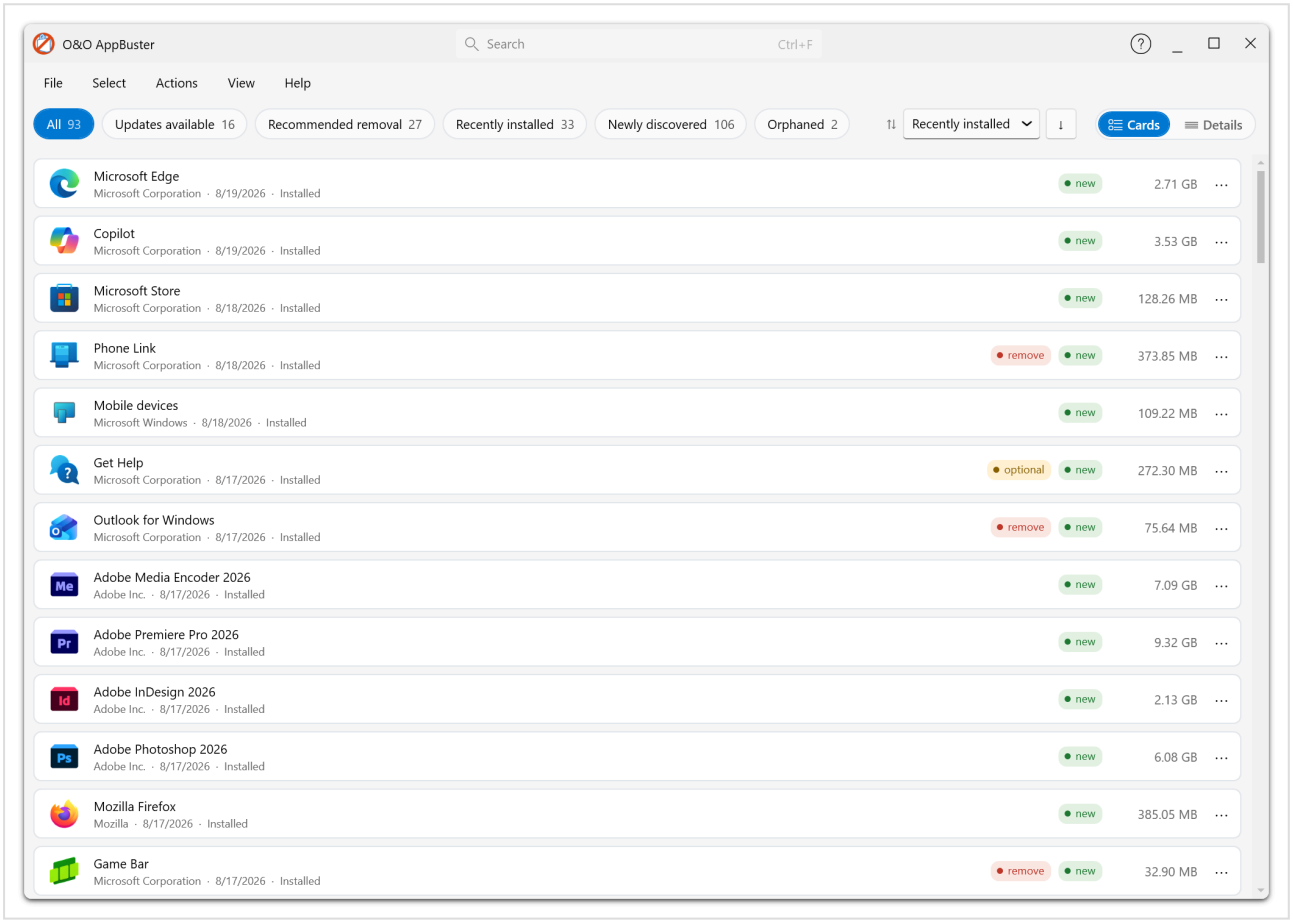
されます。**すべて表示** を押すと、該当する非表示設定をまとめて解除できます。

表示件数が予想より少ない場合は、この通知を確認してください。

スマートビュー

スマートビューは、よく使う条件でアプリ一覧を絞り込む機能です。一覧の上に、各条件に該当する件数付きのボタンが並びます。選ぶと該当するアプリだけが表示され、**すべて** を選ぶと一覧に戻ります。

アプリの種類や状態で絞り込めます。たとえば **新規検出** では、前回利用した後に見つかったアプリだけを確認できます。



各ボタンには該当件数が表示されます。「すべて」を選ぶと一覧全体に戻ります。

スマートビューの種類

スマートビュー	表示されるアプリ
すべて	一覧に含まれるすべてのアプリ。最初に表示されるビューです。
利用可能な更新	Windows パッケージ マネージャーで新しいバージョンが見つかったアプリ。
削除推奨	「取り除く」または「任意」と判定されたアプリ。
最近インストール	過去 30 日以内にインストールされたアプリ。
新規検出	前回 O&O AppBuster を使用した際にはなかったアプリ。
非表示	PC には存在するものの、現在のアカウントに登録されていない Windows アプリ。
孤立	アンインストール済みのアプリが残した項目。
不具合	インストーラーパッケージが見つからず、Windows からアンインストールできない MSI アプリ。
システム	Windows のコンポーネント。情報の表示のみで、削除できません。
フレームワーク	ほかのアプリが必要とするランタイム。情報の表示のみです。

表示 → フィルター からはすべてのビューを選べます。ウィンドウの幅が狭く、ボタンが収まらないときに利用してください。

ボタンが表示される条件

各分類に 1 件以上該当するアプリがある場合にだけボタンが表示されます。たとえば孤立した項目や破損した項目がなければ、それぞれのボタンは表示されません。

利用可能な更新 は、更新機能が有効で、Windows パッケージ マネージャーがインストールされている場合に限り表示されます。更新を参照してください。

検索、表示形式、選択との関係

- **検索** は現在のビューを対象にします。別のビューにだけ該当するアプリがある場合は、最初に結果が見つかったビューに切り替わります。
- **並べ替え**と**カード**／**詳細**の表示形式は、スマートビューとは独立して設定できます。
- **選択** はビューを切り替えても維持されます。たとえば 5 件を選択してから別のビューに移っても、操作バーの選択件数は 5 件のままです。

> **削除前に選択件数を確認する**
>
> ビューを切り替えた後は、**アプリをアンインストールする** を押す前に操作バーの件数を確認してください。想定より多ければ、**すべて選択解除** で選び直します。

目的別の使い方

手早く不要なアプリを整理する

1. **削除推奨** を開き、**選択 → 削除を推奨するアプリをすべて選択する** を選びます。
2. 使用しているアプリのチェックを外します。
3. **アプリをアンインストールする** を選びます。

ディスクの空き容量を確保する

1. **すべて** を選び、**ストレージ**の降順で並べ替えます。
2. 使用量が大きいものから、アプリごとに削除するか判断します。

Windows が新たに追加したアプリを確認する

1. **新規検出** で前回以降に追加されたものを確認します。
2. 確認した項目を確認済みに設定すると、新規として表示されなくなります。

過去のアンインストールで残った項目を整理する

1. **孤立** には、残存する登録情報やデータフォルダーが表示されます。
2. **不具合**には、Windows の通常の操作ではアンインストールできなくなったアプリが表示されます。

インストール済みのアプリを最新に保つ

1. **利用可能な更新** を開きます。
2. 対象のアプリを選んで **アップデート** をクリックします。

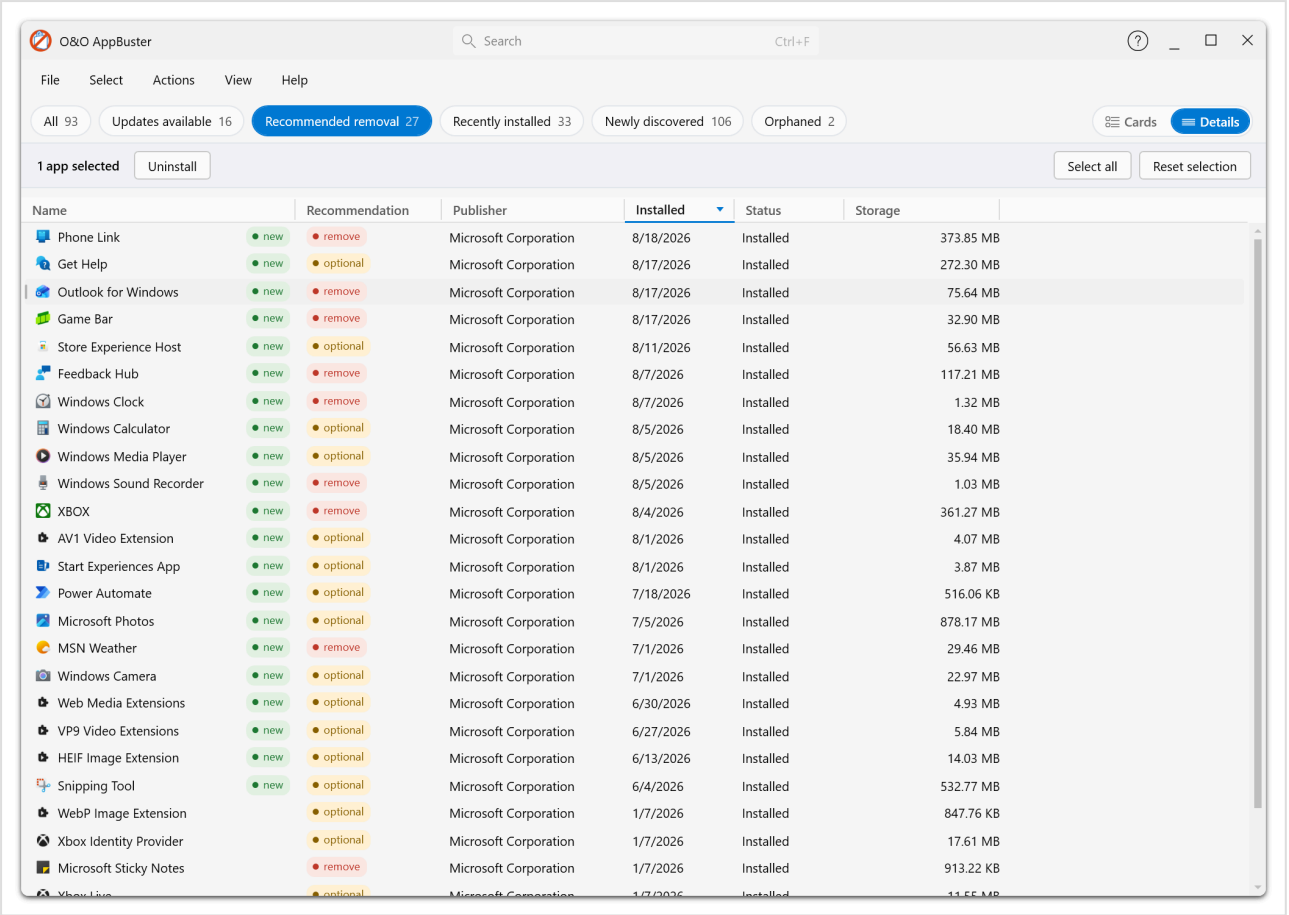
推奨事項

アプリを削除する前に、Windows やほかのプログラムがそのアプリを必要としているかを確認します。O&O AppBuster は判断の参考として各アプリに推奨を表示します。

推奨の 3 段階

推奨	ツールチップの意味	判断の目安
キープ	アプリを保持	Windows やほかのアプリが必要としているか、削除を勧める根拠がありません。そのまま残します。
任意	保持または削除	削除しても差し支えありません。利用状況に合わせて選んでください。
取り除く	削除を推奨	典型的な不要アプリです。依存する機能がなく、削除による影響は通常ありません。

表示 → アプリ情報 で **推薦** をオンにすると、詳細表示では列に、カード表示ではアプリ名の下に推奨が表示されます。



「推薦」列で、削除を勧めるアプリと任意のアプリを見分けられます。

推奨の判定方法

O&O が管理する既知のアプリ一覧と、パッケージ ID および発行元 ID を照合します。たとえば Microsoft が発行する *Microsoft.BingWeather* は、名前から推測するのではなく、該当する登録情報に基づいて判定されます。

一覧に登録されていないアプリは、次のように扱います。

> **既定の判定は「キープ」**
>
> 既知の一覧にないアプリには **キープ** と表示されます。必須という意味ではなく、削除を勧めるだけの情報がないという意味です。

不明なアプリを残す場合の影響はディスク容量の使用ですが、誤って削除するとほかの機能が使えなくなる可能性があるためです。

削除を勧めることが多いアプリ

代表例は次のとおりです。

- Windows に付属するニュース、天気、金融、スポーツ、旅行、3D Builder、Cortana、動画編集などの追加アプリ
- Windows に付属するゲームやゲームハブ
- Windows 標準機能と用途が重複するメーカー製アプリ
- 所有していない機器専用の連携アプリ

システムアプリやフレームワークアプリは削除できないため、削除が推奨されることはありません。

推奨に基づいて選択する

選択 メニューから、推奨の種類に基づいて一括選択できます。

- **削除を推奨するアプリをすべて選択する**：削除が推奨されているすべてのアプリを選択します。
- **オプションで推奨されるアプリをすべて選択する**：推奨が「任意」のすべてのアプリを選択します。

削除推奨 のスマートビューと組み合わせると、次の手順で整理できます。

1. **削除推奨** をクリックします。
2. **選択 → 削除を推奨するアプリをすべて選択する** を選びます。
3. 使用中のアプリのチェックを外します。
4. **アプリをアンインストールする** を選びます。

利用状況に合わせて判断する

推奨は削除による技術的な影響を示します。毎朝使う天気アプリや必要な Xbox アプリといった、個人の利用状況までは考慮されません。

削除を確定する前に選択内容を見直し、必要なアプリを残してください。

> **判断に迷ったら**
>
> **インストール済み** の日付とプロパティを確認します。PC の購入時から入っていて用途に心当たりのないアプリと、先週自分でインストールしたものを見分ける手がかりになります。

推奨で一覧を整理する

- 並べ替えの基準を**推薦**にすると、同じ判定のアプリがまとまります。
- **表示 → タイプ別グループ** を併用すると、アプリの種類ごとに表示できます。たとえばデスクトッププログラムを除外し、削除候補の Windows アプリだけを確認できます。

アプリを削除する

アプリを選び、削除する範囲を指定します。使用中のファイルがある場合は、対象を確認して処理方法を選べます。

削除を開始する

次のいずれかの方法で開始します。

- 1 件以上のアプリを選択し、一覧の上にある操作バーで **アプリをアンインストールする** をクリックします。
- 個別のアプリを右クリックして **アプリをアンインストールする** を選びます。
- **操作 → アプリをアンインストールする** を選びます。

> **実行前に選択件数を確認する**
>
> スマートビューを切り替えても選択は保持されます。操作バーの件数が想定より多い場合は **すべて選択解除** で選び直してください。

削除の確認ダイアログ

変更を加える前に、これから実行する操作が表示されます。

対象のアプリ

選択したアプリ名または件数が表示されます。多数選んだ場合は表示が省略されるため、**すべて確認 ›** をクリックして全件を確認します。

削除範囲

Windows アプリでは、次の範囲から選べます。

範囲	効果	補足
現在のユーザー	自分のアカウントからだけ削除します。ほかのアカウントには残ります。	影響が最も小さい選択肢です。
全ユーザー	この PC のすべてのアカウントから削除します。	管理者権限が必要です。
PC 全体（ファイルを含む）	すべてのアカウントから削除し、ディスク上の残存ファイルも削除します。	最も徹底した削除方法です。空き容量を確保したい場合に選びます。

> **デスクトップアプリの削除範囲**
>
> 範囲を選べるのは Windows（ストア）アプリです。**デスクトップアプリは、そのアプリ専用のアンインストーラーで削除します。** O&O AppBuster からユーザー単位の範囲は指定できません。選択にデスクトップアプリが含まれている旨が表示された場合は、各アンインストーラーの画面でも必要な確認を行ってください。

削除を確定する

アプリを削除する で削除を開始します。**キャンセル** を選ぶと、何も変更せずに閉じます。

O&O AppBuster には個々の削除を取り消すボタンがありません。Windows アプリは条件が合えば再インストールでき、システムの復元ポイントではシステム全体を以前の状態に戻せます。

処理中の表示

進行状況の画面には次の情報が表示されます。

- 実行中の操作と選択した範囲
- 処理済みの件数（例：12 件中 3 件）
- 現在処理しているアプリ

いつでも中止できます。中止は次のアプリを処理する前に有効になり、削除済みのアプリは元に戻りません。

デスクトップアプリでは専用のアンインストーラーが 1 つずつ実行されます。確認画面が出た場合は、表示された順に応答してください。

処理結果

終了すると、進行状況の画面が結果の表示に切り替わります。

- すべて成功した場合は、**アプリを削除しました** または全 N 件を削除した旨が表示されます。
- 一部を処理できなかった場合は、削除件数とスキップ件数が表示されます。

削除済みのアプリとスキップしたアプリは別々に表示されます。スキップした項目には理由も表示されます。よくある理由は、別のプロセスがファイルを使用していることです。

必要に応じて次の操作を選びます。

ボタン	動作
スキップした項目を再試行	スキップしたアプリを再処理します。ファイルを使用していたプログラムを閉じた後などに使います。
ログを保存…	削除範囲、削除したアプリ、スキップしたアプリと理由をテキストファイルに保存します。

ファイルが使用中の場合

ファイルを使用しているプログラム名が表示されます。次のいずれかを選んでください。

選択肢	動作
これらのプログラムを終了して削除	対象のプログラムを終了して削除を続けます。
次回の再起動時に削除	次回の Windows 起動時に削除します。対象は再起動後に削除するアプリの一覧に表示されます。
このアプリをスキップ	このアプリは変更せず、次のアプリの処理に進みます。

再起動時の削除を予約した場合は、PC を再起動して削除を完了するよう、結果画面に案内が表示されます。

> **作業内容を先に保存する**
>
> 「これらのプログラムを終了して削除」を実行すると、保存を確認せずにプログラムが終了します。編集途中のファイルなどは先に保存してください。

種類別の削除対象

Windows アプリ（ストア／UWP）

指定した範囲でアプリパッケージの登録を解除します。**PC 全体** でファイルも削除すると、アプリのデータフォルダーも削除されます。多くの場合、このフォルダーが空き容量の主な回収対象です。

デスクトップアプリ（Win32／MSI）

MSI 形式では `msiexec`、それ以外はアプリが登録したアンインストーラーを実行します。アンインストール情報だけが残った場合は、O&O AppBuster がその登録を削除します。

孤立したアプリ

アプリ本体が残っていないため、残存データフォルダー、実体のないインストーラー登録、古いアンインストール項目などを直接削除します。孤立したアプリを参照してください。

破損したアプリ

インストーラーパッケージのキャッシュがないため、Windows の通常の操作では削除できません。O&O AppBuster が Windows Installer の製品登録、アンインストール用のレジストリエントリ、残存ファイルを直接削除します。破損したアプリを参照してください。

削除できないアプリ

システムアプリ と **フレームワークアプリ** は情報の表示のみです。Windows やほかのアプリが依存するため、ステータスは「削除不可」となり、削除操作は表示されません。

個別のアプリを Windows が保護している場合もあります。削除できなかったものは、理由とともにスキップの一覧に表示されます。

大規模な整理の前に

1. **システムの復元ポイントを作成します。** 必要になった場合に、システムの状態を戻すための備えになります。
2. **推奨事項から始めます。** まず影響の小さい削除候補を確認してください。
3. **数件ずつ処理します。** 20 件を同時に削除するより、5 件ずつ削除する方が、問題が起きたときに原因を特定しやすくなります。
4. **ログを保存します。** とくにほかの人の PC を整理する場合は、具体的な作業記録を残せます。

アプリのインストール

Windows アプリを自分のアカウントから削除しても、ファイルが PC に残っていれば、O&O AppBuster で再度そのアカウントに登録できます。

Windows アプリをアカウントから削除した操作は、この方法で取り消せます。

インストールできるアプリ

O&O AppBuster でインストールできるのは、PC にファイルが残っている **Windowsアプリ**（Microsoft Store アプリまたは UWP アプリ）です。該当するのは次の場合です。

1. **自分のアカウントからだけ削除した場合。** パッケージは PC に残っているため、再び同じアカウントに登録できます。
2. **Windows に付属するアプリが自分のアカウントに登録されていない場合。** このような非表示のアプリは PC に事前配置されていますが、ユーザープロファイルでは使えません。

対象のアプリには **インストール可能** と表示されます。ツールチップでも、この PC からインストール可能であることを確認できます。

> **デスクトップアプリを再インストールする場合**
>
> O&O AppBuster はデスクトッププログラムを管理しますが、インストーラーは提供していません。アンインストール後は、各製品のセットアップファイルを使ってください。インストール済みのデスクトップアプリは O&O AppBuster で更新できます。

インストール可能なアプリを表示する

標準の一覧は削除するアプリを探すための表示で、インストール可能なアプリは非表示です。

表示 → インストール可能なWindowsアプリを表示する をオンにすると、ステータスが「インストール可能」のアプリも一覧に表示されます。**非表示** のスマートビューを選ぶと、これらのアプリだけを確認できます。

インストールの手順

1. **表示 → インストール可能なWindowsアプリを表示する** をオンにします。
2. 再び使いたいアプリを選択します。
3. 行の右クリックメニューで **インストール** を選ぶか、**操作 → アプリのインストール** を選びます。
4. 確認ダイアログで実行します。

進行状況と処理中のアプリが表示されます。インストール先は常に**現在のユーザー**です。ほかのアカウントにアプリを事前配置することはできません。

完了すると、1 件成功、複数件成功（件数付き）、またはインストールされたアプリなしのいずれかが表示されます。

インストール後の確認

アプリがスタートメニューに表示されます。次に一覧を更新すると（**F5**）、ステータスが「インストール可能」から「インストール済み」に変わります。

PC 全体を対象にファイルを含めて削除した場合、再インストールしても以前の設定やデータは復元されません。初期状態から使い始めます。

インストールに失敗した場合

エラーはアプリごとに表示され、選択した残りのアプリの処理は続行されます。主な原因は次のとおりです。

- **パッケージが PC に残っていない。** PC 全体から削除した際に元のファイルも削除された場合は、Microsoft Store から入手してください。
- **権限が不足している。** O&O AppBuster を管理者として実行していても、組織で管理されている PC ではポリシーによりインストールが禁止されている場合があります。
- **パッケージが破損している。** Microsoft Store から再インストールしてください。

> **O&O AppBuster から復元できない場合**
>
> Microsoft Store を開き、アプリ名を検索してください。Windows に付属するストアアプリは、O&O AppBuster を使わずにストアから入手できます。

更新

O&O AppBuster はアプリを検出する際、新しいバージョンの有無を確認できます。更新の確認とインストールには、Windows の**パッケージ マネージャー**（`winget`）を使用します。

使用条件

更新機能には `winget` が必要です。Microsoft の**アプリ インストーラー**に含まれており、現在の Windows 11 では標準でインストールされています。

- `winget` があれば、更新機能は既定で有効です。
- 見つからない場合は設定項目が無効になり、更新機能を使用するには Microsoft Store から「アプリ インストーラー」をインストールするよう案内されます。

更新以外の機能はそのまま使えます。

更新機能の切り替え

設定 → wingetによる更新 → winget で更新を検索 を選びます。

設定を変更すると O&O AppBuster の再起動を求められます。再起動によりバックグラウンドの処理を終了し、画面全体に設定を反映します。

次のような場合は無効にできます。

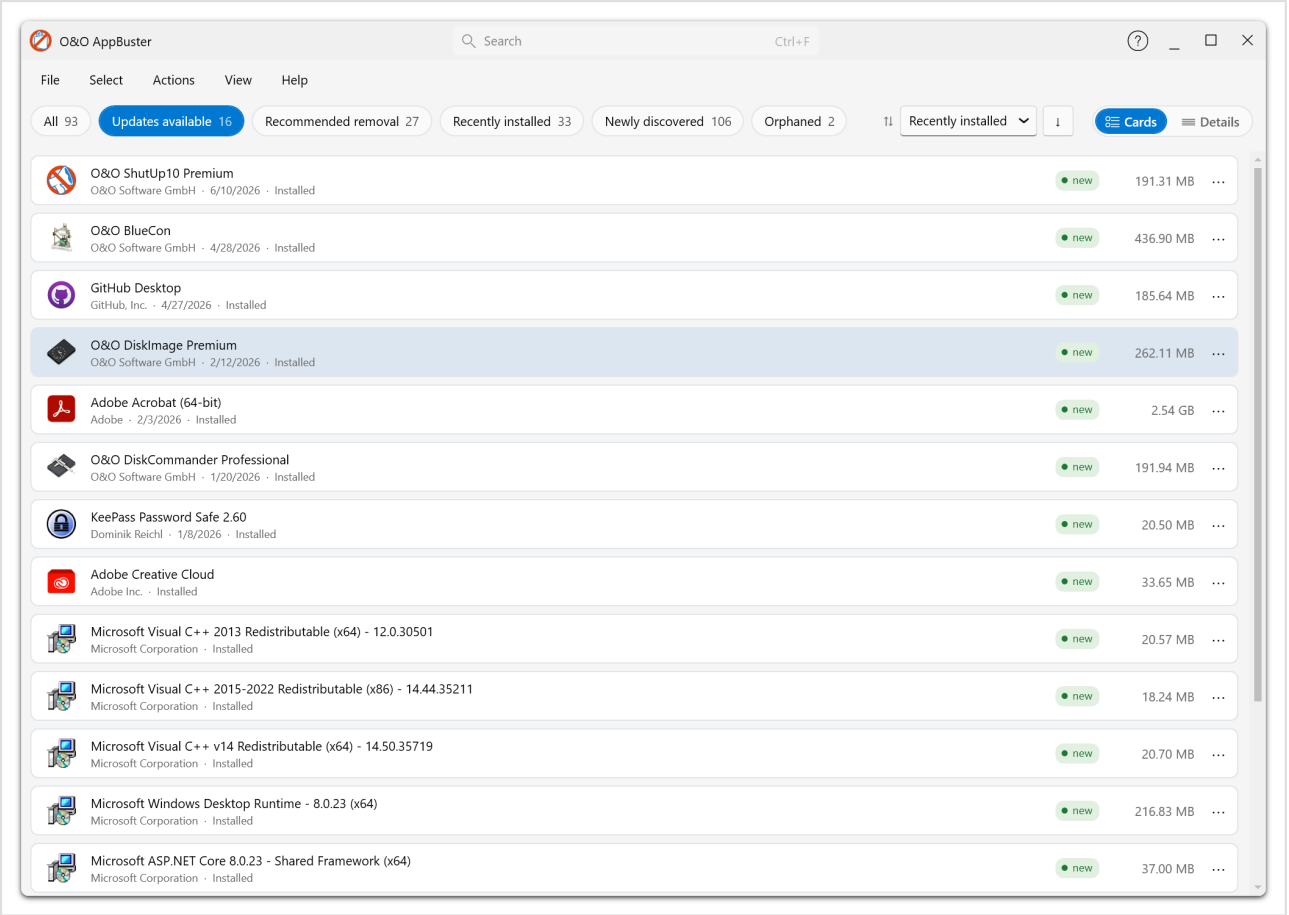
- 自分で更新を管理しており、バックグラウンドで確認する必要がない。
- 処理速度の遅い PC で、初回スキャンの時間を短縮したい。
- 組織がソフトウェアを一元管理しており、更新は管理者が行う。

更新があるアプリを探す

一覧の作成後、バックグラウンドで更新の有無を調べます。確認中でも一覧を操作できます。

新しいバージョンが見つかると、次のように表示されます。

- 対象アプリの **アップデート** 列に、winget で更新できる旨が表示されます。
- **利用可能な更新** のスマートビューに対象件数が表示されます。
- 選択したアプリに更新対象が 1 件以上あると、操作バーに **アップデート** が表示されます。



Windows パッケージ マネージャーで新しいバージョンが見つかったアプリだけが表示されます。

更新をインストール

1. **利用可能な更新** をクリックします。
2. 更新するアプリを選択します。
3. **アップデート** をクリックするか、**操作 → wingetで選んだアプリを更新** を選びます。
4. 確認ダイアログで実行します。

進行状況の画面に処理中のアプリが表示されます。終了後はアプリごとに **更新済み** または **アップデート失敗** と表示されます。

更新中の動作

実際に更新を行うのは Windows パッケージ マネージャーです。そのため、次のことがあります。

- 一時的にコンソールウィンドウが開きます。
- 個別のインストーラーが確認を求めた場合は、画面の指示に従います。
- あるアプリの更新に失敗しても、ほかのアプリの処理は続きます。

実行前の確認画面にもこれらの説明が表示されます。

更新結果

処理の終了時に、次のいずれかが表示されます。

結果	意味
更新完了	選択したアプリがすべて更新されました。
エラーありで完了	更新できたアプリと失敗したアプリがあります。
更新中にエラーが発生	更新処理を実行できませんでした。
ユーザーによるキャンセル	ユーザーが処理を中止しました。

失敗理由はアプリごとに表示されます。アプリが起動中、発行元から一時的にダウンロードできない、Windows に登録された名前では winget のカタログに見つからない、といった理由があります。

更新対象外のもの

- **Microsoft Store の Windows アプリ**はストアが更新します。
- **Windows 自体**は Windows Update が更新します。O&O AppBuster は変更しません。
- **winget が認識していないアプリ**（ポータブル版、社内ツール、カタログに登録のないアプリなど）は、この方法では更新できません。一覧には表示されますが、利用可能な更新は表示されません。

更新を自動化する

O&O AppBuster は操作したときだけ更新します。スケジュール実行や自動更新のモードはなく、閉じた後もバックグラウンドに常駐することはありません。

無人で更新する場合は、Windows のタスク スケジューラから `winget upgrade --all` を実行する方法があります。

システムの復元ポイント

O&O AppBuster はアプリ、レジストリ項目、ファイルを削除できます。削除後に問題が起きても Windows のシステム設定を戻せるよう、変更前に復元ポイントを作成してください。

手動で作成する

操作 → システムの復元ポイントを作成 を選びます。

確認して、復元ポイントを作成中である旨の表示が消えるまで待ちます。作成したポイントは、Windows の復元画面で O&O AppBuster の名前を目印に探せます。

自動で表示される確認

起動後、最初の変更の前に、次の内容の確認画面が表示されます。

> システムの復元ポイントを作成しますか？
>
> 最初の変更の前に復元ポイントを作成してください。設定の変更で期待した結果が得られなかった場合に、システムを変更前の状態へ戻せます。
>
> 復元ポイントの作成を強くお勧めします。

特別な理由がなければ **はい** を選びます。

システムの保護が無効な場合

復元ポイントを作成するには、システムドライブで**システムの保護**を有効にする必要があります。メーカー出荷時の設定などで無効になっている PC もあります。

保護が無効な場合は、変更先が表示されます。

コントロール パネル → システムとセキュリティ → システム → システムの保護を開き、ドライブ `C:` を選んで**構成**をクリックします。

OK を選ぶと復元ポイントを作らずに続行し、**キャンセル** を選ぶと予定していた変更を取りやめます。初めて多数のアプリを整理する場合は、先に保護を有効にしてください。

作成に失敗した場合

エラーが表示されたら次の項目を確認します。

- **権限**：管理者権限が必要です。通常 O&O AppBuster は管理者として起動するため、権限不足はまれです。

- **ディスクの空き容量**：Windows は復元ポイント用にドライブの一部を使用します。空きがなければ作成できません。
- **サービス**：Volume Shadow Copy など、システムの復元に必要なサービスが動作しているか確認します。

Windows は復元ポイントの自動作成頻度を制限しています。作成直後にもう一度実行した場合は、通知なく省略されることがあります。

復元ポイントを使う

復元は Windows の機能で行います。

1. スタートメニューで「復元ポイントの作成」を検索し、**システムの保護**を開きます。
2. **システムの復元**をクリックします。
3. O&O AppBuster の名前が付いた復元ポイントを選びます。
4. ウィザードの案内に従います。

> **復元されるもの**
>
> 復元対象はシステムファイル、インストール済みのプログラム、レジストリ設定、ドライバーなどです。個人の文書には影響しません。ユーザープロファイル内のアプリデータは、システムを復元しても戻るとは限りません。

ほかの復旧方法

復元ポイントはアプリを整理する際の備えになりますが、バックアップの代わりにはなりません。より広い範囲を変更する場合は、ドライブ全体のイメージバックアップを検討してください。

削除したものに応じて、次の方法も利用できます。

削除したもの	戻す方法
現在のユーザーから削除した Windows アプリ	O&O AppBuster で再インストールします。
PC 全体から削除した Windows アプリ	Microsoft Store から入手します。
デスクトップアプリ	製品のセットアップファイルから再インストールします。
孤立または破損した残存項目	動作するアプリ本体はすでに存在しません。

確認を省略する

コマンドラインパラメーター `/nosrp` で起動すると確認を省略できます。別の方法でバックアップ済みの PC で無人実行する場合など、意図して省略する場合に使ってください。

アプリの種類

Windows の「アプリ」には、ストアアプリ、デスクトッププログラム、ランタイム、それに削除済みソフトウェアの残存項目も含まれます。それぞれ操作方法が異なるため、O&O AppBuster では種類を識別して表示します。

分類は **タイプ** 列と各アプリのプロパティに表示されます。以下の表から、各種類の詳しい説明を参照できます。

アプリの種類一覧

種類	内容	削除の可否・操作	詳細
Windowsアプリ	Microsoft Store のアプリ（UWP／MSIX）	削除可	Windows アプリ
ストア	PC に登録されているが現在のユーザーには未インストール	インストール可	Windows アプリ
ステージング済みアプリ	PC にパッケージがあるがどのユーザーにも未インストール	削除可	Windows アプリ
デスクトップアプリ	従来型の Windows プログラム（Win32／MSI）	専用アンインストーラーで削除	デスクトップアプリ
Windowsアプリ（非表示）	PC に事前配置されていてスタートメニューには出ないアプリ	削除またはインストール可	非表示のアプリ
システムアプリ	Windows 自体に必要なコンポーネント	削除不可	システムアプリとフレームワーク
フレームワークアプリ	ほかのアプリが使用するランタイム	削除不可	システムアプリとフレームワーク
孤立したアプリ	削除済みの Windows アプリのデータフォルダー	残存項目を削除可	孤立したアプリ
孤立したデスクトップアプリ	ファイルがすでに存在しないデスクトップアプリの登録	残存項目を削除可	孤立したアプリ
欠陥のあるアプリ	インストール済みだが Windows からアンインストールできないアプリ	直接削除可	破損したアプリ

アプリの種類と状態

分類を見るときは、次の 2 点を区別します。

どの仕組みで管理されているか

- **Windowsアプリ** は Windows のパッケージ管理機能を使います。現在のユーザー、全ユーザー、PC 全体を対象に削除でき、条件に応じて再インストールできます。
- **デスクトップアプリ** は製品専用のインストーラーで管理されます。削除時には専用のアンインストーラーが起動し、ユーザー別の削除範囲は指定できません。再導入にはセットアップファイルが必要です。

現在どのような状態か

- **インストール済み**：通常どおりインストールされ、使用できます。
- **インストール可能** または**ステージング済み**：ファイルは PC 上にありますが、現在のユーザーには登録されていません。ステージング済みでは、どのユーザーにも登録されていません。
- **孤立**：アプリ本体はすでになく、データや登録だけが残っています。
- **破損**：アプリ本体は残っていますが、インストーラー情報の不整合で Windows から削除や修復ができません。
- **削除不可**：Windows が必要とするコンポーネントです。

分類に使われる情報源

Windows の「アプリと機能」だけではなく、複数の情報源を調べ、同じ製品の情報を照合します。

情報源	検出対象
Windows のパッケージ管理機能	現在のユーザーとコンピューター全体の Windows アプリ。
`HKLM\...\CurrentVersion\Uninstall`（64 ビットと 32 ビットのビュー）	PC 全体にインストールされたデスクトップアプリ。
読み込み済みの各プロファイルの `HKU\<SID>\...\CurrentVersion\Uninstall`	サインイン中のすべてのユーザーのユーザー別デスクトップアプリ。
`HKCR\Installer\Products`	実体のない登録を含む Windows Installer の製品登録。
`%LocalAppData%\Packages`	残存分を含む Windows アプリのデータフォルダー。

Visual Studio Code や TortoiseGit など、MSI と Windows パッケージの両方を登録する製品があります。先にデスクトップアプリを検出して **デスクトップアプリ** と分類し、そこにパッケージ情報を加えることで、二重表示を防ぎます。

スキャン時のレジストリ操作は読み取りだけです。書き込みは削除時に限られます。

新しく検出されたアプリ

種類とは別に、前回の記録になかったアプリには **新規検出** の印が付きます。これはアプリの種類ではなく、いつ検出されたかを示します。

➡️ 新しく検出されたアプリ

最初に確認する項目

PC を整理する場合は、まず次の 2 種類から確認します。

1. 削除が推奨される **Windowsアプリ**：不要なプリインストールアプリなどが該当します。
2. 心当たりのない **デスクトップアプリ**：個別に調べ、不要なものを削除します。

以前のアプリを戻すには非表示のアプリ、削除後の不整合を解消するには孤立したアプリや破損したアプリを確認します。システムアプリとフレームワークは情報の表示のみです。

Windows アプリ

Windows 10／11 の Windows アプリは、ストアアプリ、UWP アプリ、MSIX パッケージなどとも呼ばれます。Microsoft Store で入手するもののほか、Microsoft や PC メーカーが事前にインストールしたものがあります。

一覧の種類は **Windowsアプリ** と表示されます。

整理の対象になる理由

Windows 11 にはニュース、天気、ゲーム、Microsoft サービスの連携用アプリなどが付属します。利用状況を確認し、不要なものを O&O AppBuster で削除できます。

Windows の「アプリと機能」にアンインストール操作がないアプリの中にも、O&O AppBuster で削除できるものがあります。

Windows アプリの削除範囲

Windows アプリでは、どこまで削除するかを選択できます。

範囲	効果
現在のユーザー	現在のアカウントから削除します。ほかのアカウントには残り、後で再インストールできます。
全ユーザー	この PC のすべてのアカウントから削除します。
PC 全体（ファイルを含む）	すべてのアカウントから削除し、ディスク上のアプリのデータフォルダーも削除します。

空き容量を確保するなら **PC 全体**、自分のアカウントで使わないだけなら **現在のユーザー** を選びます。

➡️ アプリの削除

再インストールするには

自分のアカウントからだけ削除した場合はパッケージが PC に残ります。**表示 → インストール可能な Windowsアプリを表示する** をオンにし、**インストール可能** と表示されたアプリを選んで **インストール** をクリックします。

PC 全体 で削除した場合は、パッケージが残っていないことがあります。その場合は Microsoft Store から再インストールします。

➡️ アプリのインストール

関連する状態

Windows アプリは「インストール済み」以外にも次の状態で表示されます。

ストア

種類は **ストア**、状態は **インストール可能** です。PC に登録されていますが、自分のアカウントには未インストールです。自分のアカウントからだけ削除した後もこの状態になります。

Windowsアプリ（非表示）

PC に事前配置されているものの、自分のプロファイルには登録されず、スタートメニューに表示されていません。非表示のアプリを参照してください。

ステージング済みアプリ

種類は **ステージング済みアプリ**、状態は **ステージング済み（未インストール）** です。パッケージは展開されていますが、どのユーザーにも登録されていません。Windows の更新やメーカーの出荷イメージに由来することが多く、未使用のものは容量を取り戻すための削除候補です。

Microsoft 製アプリ

Microsoft 製アプリは多くの PC で一覧の大部分を占めます。サードパーティー製品に絞るには **表示 → マイクロソフトのアプリを表示する** をオフにします。一覧の上に非表示件数が表示され、そこからまとめて再表示できます。

Microsoft 製というだけでは必要性は判断できません。天気アプリと Windows の中核コンポーネントのように、発行元が同じでも役割は異なります。種類と推奨事項を確認してください。

削除する前に注意するアプリ

多くの Windows アプリは削除できますが、次のものは日常の操作やほかの機能に影響します。

- **Microsoft Store。** 削除すると、ストアアプリを通常の手順で再インストールできなくなります。
- **アプリ インストーラー。** `winget` を提供します。削除すると O&O AppBuster の更新機能が使えません。
- **Windows ターミナル、フォト、カメラ、メモ帳。** ストアアプリとして削除できますが、普段の Windows の操作で使う機能も失われます。
- **メーカーの機器制御アプリ。** ノート PC のキーボードのバックライトや専用キーを制御するアプリなどを削除すると、ハードウェアの一部の機能が使えなくなります。

明示的な削除候補でないものには原則 **キープ** が表示されます。削除を確定する前に推奨を確認してください。

自分のアカウントだけで試す

判断に迷う場合は **現在のユーザー** の範囲で削除します。必要になれば Microsoft Store を開かずに O&O AppBuster から再インストールできます。

デスクトップアプリ

デスクトップアプリは、セットアップファイルからインストールし、「プログラムと機能」に登録され、専用のアンインストーラーで削除する従来型の Windows プログラムです。種類は **デスクトップアプリ** と表示されます。

検出場所

O&O AppBuster は Windows のアンインストール登録を直接調べます。Windows の「アプリと機能」画面に現れない項目も対象になります。

場所	検出される登録
`HKLM\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall`	コンピューター全体のインストール（64 ビット）。
`HKLM\SOFTWARE\Wow6432Node\...\Uninstall`	64 ビット版 Windows 上の 32 ビットのインストール。
`HKU\<SID>\SOFTWARE\Microsoft\...\Uninstall`	サインイン中の各プロファイルにあるユーザー単位のインストール。
`HKCR\Installer\Products`	Windows Installer の製品登録。

画面にアンインストール項目がなくても、Windows Installer にはインストール済みと登録されている場合があります。このような再インストールを妨げる登録も検出できます。

> **サインインしていないユーザー**
>
> ユーザー単位のインストールは、現在読み込まれているプロファイルが対象です。サインアウト中のユーザーが自分専用にインストールしたソフトウェアは表示されません。

デスクトップアプリを削除する

O&O AppBuster は**製品専用のアンインストーラー**を起動し、終了を待ちます。専用ツールは製品が追加したサービス、ドライバー、スケジュールタスク、ファイル関連付けを把握しているためです。

操作時には次の点に注意してください。

- **専用の確認画面が開く場合があります。** 設定を残すか、先にプログラムを閉じるかといった問いには、利用者が応答します。

- **削除範囲は指定できません。** O&O AppBuster のユーザー別の範囲はデスクトップアプリには適用されません。選択に含まれる場合、確認画面にその旨が表示されます。
- **1 件ずつ順番に処理します。** 10 件を選ぶと 10 個のアンインストーラーを順番に実行するため、それぞれの確認画面が表示される場合があります。

➡️ アプリの削除

アンインストーラーの終了後

登録情報だけが残った場合は、該当する 64 ビット、32 ビットまたは現在のユーザーのレジストリから登録を削除します。「プログラムと機能」に削除済みのアプリが残るのを防ぎます。

変更

変更または修復機能を登録している場合は、右クリックメニューの **変更** からインストーラーを変更モードで開けます。動作が不安定なプログラムを、削除せずに修復したいときに使います。

再インストールするには

デスクトップアプリを再インストールするには製品のセットアップファイルが必要です。O&O AppBuster 単体では再インストールできません。

インストール済みで Windows パッケージ マネージャーが認識する製品は、O&O AppBuster から更新できます。

> **削除を取り消すには**
>
> Windows アプリには再登録できるものがありますが、インストーラーを入手できないデスクトップアプリでは簡単に戻せません。削除前にシステムの復元ポイントを作成しておいてください。

ブリッジアプリ

Visual Studio Code や TortoiseGit など、MSI でインストールすると同時に Windows パッケージとしても登録される製品があります。区別しないと、二重に表示されたり、ユーザー単位で削除できるストアアプリとして扱われたりします。

このため O&O AppBuster はパッケージ マネージャーより先にレジストリを調べます。**デスクトップアプリ** として分類し、パッケージ情報を同じ項目にまとめます。

ブリッジアプリの削除には、実際のインストールに対応した MSI アンインストーラーを使用します。

削除前に確認するもの

- **ドライバーとハードウェア用ユーティリティー。** メーカーのツールを削除すると、Windows だけでは代替できない機能を失う場合があります。

- **ランタイム。** Visual C++ 再頒布可能パッケージや .NET ランタイムは、ほかのプログラムが画面に示さずに利用していることがあります。
- **統合製品のコンポーネント。** アドインやプラグイン用のサービスは親製品の一部であることが多く、削除すると親製品にも影響します。
- **見覚えのない項目。** まずプロパティで発行元、インストール先、日付を確認してください。

このような多くのケースでは、明示的に削除候補と判定されない限り **キープ** が表示されます。

非表示のアプリ

非表示のアプリは PC に存在しますが、スタートメニューや Windows の「アプリと機能」には現れません。O&O AppBuster でも初期状態では非表示で、表示を有効にすると **Windowsアプリ（非表示）** として確認できます。

非表示になる理由

Windows では、アプリが PC 上に存在することと、アカウントにインストールされていることを区別します。次の場合、ファイルがあっても現在のアカウントには登録されていません。

- Windows または PC メーカーが事前配置したものの、自分のアカウントには適用されなかった。
- 同じ PC の**別のアカウント**用にインストールされた。
- **自分のアカウントからだけ削除**したため、パッケージは PC に残った。
- スタートメニューには表示せず、Windows が必要に応じて使用するコンポーネントである。

いずれも異常ではありません。パッケージは使用可能で、現在のユーザーに登録されていない状態です。

非表示のアプリを表示する

既定の一覧は削除するアプリを探すための表示で、待機状態のパッケージは含まれません。

確認するには、次の方法があります。

- **非表示** のスマートビューが表示されていればクリックします。
- または **表示 → インストール可能なWindowsアプリを表示する** をオンにして、通常の一覧にインストール可能なアプリを含めます。

一度表示した非表示のアプリには、**マイクロソフトのアプリを表示する** などのほかの表示フィルターは影響しません。調査中に別のフィルターで見えなくなるのを防ぎます。

利用できる操作

自分のアカウントにインストールする

以前自分のアカウントから削除したアプリを戻す場合や、Windows に付属していて未登録だったアプリを使い始める場合に利用します。

アプリを選んで **インストール** をクリックします。インストールの対象は **現在のユーザー** のみです。

➡️ アプリのインストール

PC から削除する

どのユーザーにも不要であることを確認してから削除します。自分のアカウントには未登録なので、対象には **全ユーザー** または **PC 全体** を指定します。後者でファイルも削除すると、その分の空き容量を確保できます。

➡️ アプリの削除

非表示のアプリとディスク容量

使われていなくてもパッケージは容量を消費します。メーカー出荷時のノート PC では、未使用の付属アプリの合計が大きくなることがあります。

非表示 ビューで**ストレージ**順に並べ替え、削除するメリットの大きいものを確認します。

> **事前配置を解除する**
>
> **PC 全体** を対象に削除すると事前配置も解除され、今後作成するアカウントにもそのアプリは追加されません。ほかの人に渡す PC を準備する際に使えます。

非表示という状態の意味

ここでの「非表示」は通常の Windows アプリが取り得る状態であり、マルウェア判定を意味しません。Windows の通常の画面に表示されない項目を確認できるようにするものです。

心当たりのない項目はプロパティを開き、発行元、バージョン、インストール先、容量を確認してください。

システムアプリとフレームワーク

この 2 種類は削除できませんが、PC に存在するコンポーネントを把握できるよう一覧に表示されます。

どちらも状態は **削除不可** で、削除が推奨されることはありません。

システムアプリ

種類：**システムアプリ**

シェル、設定画面、セキュリティの確認画面、アカウント管理など、Windows の一部はシステムアプリとして提供されています。

> システムアプリは、Windows自体や他のアプリを実行するための重要なコンポーネントです。これらは情報提供のためだけに表示され、アンインストールすることはできません。

削除すると Windows の機能が損なわれるため、O&O AppBuster では削除できません。

フレームワークアプリ

種類：**フレームワークアプリ**

フレームワークアプリは、ほかのアプリが依存するランタイムライブラリです。Visual C++ ランタイム（`Microsoft.VCLibs.*`）、.NET Native、ストアアプリの UI フレームワークなどがあります。

> Windows アプリの実行基盤として使われるため、情報の表示のみで、アンインストールはできません。

通常は独自の画面を持ちません。利用するアプリによって必要なバージョンが異なるため、複数バージョンが共存する場合があります。

表示する理由

主に次の 3 つです。

1. **構成の把握。** Windows が管理するコンポーネントも含め、実際に PC に存在するアプリの全体像を把握できます。
2. **容量の確認。** 同じランタイムが 5 バージョンあるなど、削除は不要でもディスク使用量の理由が分かります。
3. **問題の調査。** アプリが起動しないときに、必要なフレームワークとそのバージョンが存在するか確認できます。

一覧から隠す

多数表示され、削除対象を探しにくい場合は、次の項目をオフにします。

表示 → システムアプリとフレームワークアプリを表示

一覧の上に非表示の件数が表示されます。**すべて表示** をクリックすれば再表示できます。

逆にこれらだけを調べたい場合は、**システム** または **フレームワーク** のスマートビューを選びます。

Windows には削除の選択肢がある場合

Windows がアンインストールを許可していても、O&O AppBuster がシステムアプリと判断する場合があります。削除の影響を判断しきれない項目に対しては、削除の操作を表示しません。

必要性と影響を確認したうえで削除する場合は、先にシステムの復元ポイントを作成し、Windows の機能を使用してください。

孤立したアプリ

プログラム本体をアンインストールしても、すべてのデータや登録が消えるとは限りません。残存項目を「孤立したアプリ」と呼びます。

Windows アプリの残存項目は **孤立したアプリ**、従来型プログラムの残存項目は **孤立したデスクトップアプリ** に分類され、内容を確認して削除できます。

残存項目による影響

表示が煩雑になるほかに、次の影響があります。

- **ディスク容量を消費します。** 使われないキャッシュがデータフォルダーに数百 MB 残ることがあります。
- **再インストールを妨げます。** Windows Installer の登録だけが残ると、インストール済みと判断され、セットアップが起動しなかったり原因の分かりにくいエラーで失敗したりします。
- **プログラム一覧に項目が残ります。** 「プログラムと機能」が参照するアンインストーラーがすでに存在せず、Windows からその項目を削除できません。

最後の例は、一覧から項目をどうしても消せないときによく見られます。

検出対象

孤立した Windows アプリ

`%LocalAppData%\Packages` に、インストール済みの Windows アプリのどのパッケージファミリにも対応しないデータフォルダーがあります。アプリ本体はなく、設定、キャッシュ、保存された状態などが残っています。

孤立したデスクトップアプリ

次のいずれかに該当します。

- レジストリに**インストール先**が登録されているものの、そのディレクトリがディスクに存在しません。
- **インストール先が未登録**で、アイコンやアンインストーラーなど、登録で参照しているファイルもすべて見つかりません。

実体のない Windows Installer 登録

`HKCR\Installer\Products` に製品が登録されていても、対応するアンインストール項目もインストール済みアプリも存在しない状態です。再インストールを妨げる場合があります。

> **登録とファイルの両方が残っている場合**
>
> 登録に不整合があってもプログラムのファイルが残っていれば、単なる残存項目ではなく破損したアプリとして扱います。アプリ本体は動作することがあり、インストーラー情報だけが壊れている場合を区別するためです。

残存項目の内容を確認する

Windows が保持しているのは識別子だけの場合があり、`Microsoft.MicrosoftEdge_8wekyb3d8bbwe` や GUID がそのまま表示されることがあります。

O&O AppBuster は識別子から元の製品や用途を推定し、プロパティに表示します。

項目	内容
表示名	元の製品を識別しやすい名前。
元の識別子	Windows に保存されていた識別子。
元の名称	登録されていた製品名（存在する場合）。
ベンダー/製品ファミリー	推定されるメーカーと製品系列。
推定される用途	ブラウザーのサンドボックス、Office アドイン、同期機能など、元のコンポーネントの用途。
信頼度	推定結果の信頼度（**高**、**中**、**低**）。
説明	推定結果の詳しい説明。

識別できない場合は、製品との対応関係を確実に判断できなかったことが、名前と説明に示されます。

> **確度に注意する**
>
> 確度が **高** なら既知の残存項目と認識されています。不明な場合は、残存項目の特徴に一致しただけです。見覚えのないものは、削除前に識別子とインストール先を調べてください。

インストール済み製品の追加コンポーネント

プラグインサービス、Office アドイン、機器との通信ツールなどは、親製品のフォルダーにインストールされ、独自のインストール先を持たないことがあります。孤立した項目の検出条件に似ていますが、利用中の追加コンポーネントかもしれません。

機器専用のプラグインサービスや Office の会議用アドインなどを削除すると、親製品の機能が失われます。

既知の追加コンポーネントは、親製品がインストールされている限り孤立と分類しないよう保護されています。すべてを判別できるわけではないため、使用中の製品のアドイン、プラグイン、サービス、補助ツールと思われるものは残してください。

クリーンアップ

項目を選び、**アプリをアンインストールする** をクリックします。アンインストールするプログラム本体はないため、次のものを直接削除します。

種類	削除対象
孤立した Windows アプリ	`%LocalAppData%\Packages` の該当データフォルダー。
孤立したデスクトップアプリ	64 ビット、32 ビット、現在のユーザーのレジストリに残ったアンインストール項目、および残っているインストール先フォルダー。
実体のない製品登録	Windows Installer の製品登録と、インストーラーのユーザーデータ内の該当項目。

ファイルが使用中の場合は、使用中のプログラムを終了する、次回再起動時に削除する、該当項目をスキップする、のいずれかを選べます。

➡️ アプリの削除

> **ファイルとレジストリキーを直接削除します**
>
> 専用のアンインストーラーで確認できないため、システムの復元ポイントを先に作成し、項目を 1 件ずつ確認してください。

「孤立」ボタンが表示されない場合

孤立 のボタンは該当する項目がある場合にだけ表示されます。ソフトウェアの入れ替えが少ない PC で表示されなくても異常ではありません。

破損したアプリ

インストールされたプログラム自体が動作しても、Windows からアンインストール、修復、更新ができなくなることがあります。O&O AppBuster はこれらを検出し、レジストリを手作業で編集せずに削除できます。

一覧の「タイプ」には**欠陥のあるアプリ**と表示されます。

破損の原因

Windows Installer（MSI）でインストールしたプログラムでは、アンインストーラーを製品フォルダーに置く代わりに、Windows がインストーラーパッケージのコピーを保管します。アンインストール、修復、更新の際にはこのコピーが必要です。

ディスク整理ツールによる削除、ドライブのエラー、移行時の欠落などでキャッシュの `.msi` ファイルが失われると、次の問題が生じます。

- **アンインストールできない。** `msiexec` が必要なパッケージを見つけられません。
- **修復できない。** 同じパッケージが必要なためです。
- **更新できない。** MSI の更新はキャッシュされたパッケージに適用されます。
- **「プログラムと機能」に登録が残る。**

プログラムを引き続き使えても、Windows Installer から管理できません。

検出の仕組み

O&O AppBuster は MSI ベースのアプリごとに次の確認を行います。

1. Windows に登録されたアンインストールコマンドを読み、`msiexec` を使用しているか確認します。
2. コマンドから製品 GUID を取り出します。
3. 全ユーザープロファイルを対象に、Windows Installer のユーザーデータからパッケージのキャッシュ先（`LocalPackage`）を調べます。
4. 指定されたファイルが実際に存在するか確認します。

登録先にパッケージがない場合は破損と判定します。パッケージのパスが未登録でも、`HKCR\Installer\Products` に製品登録が残っていれば同様です。

`msiexec` 以外の専用アンインストーラーを使うアプリはこの判定の対象外です。有効な製品 GUID がない場合も、推測で判定せずスキップします。

> **ブリッジアプリも対象**
>
> Visual Studio Code や TortoiseGit など、MSI でインストールし、同時に Windows パッケージとしても登録される製品では、表示名から対応する MSI 登録を探します。

破損したアプリを削除する

この場合は通常のアンインストーラーが動作しないため、O&O AppBuster が次の項目を直接削除します。

1. **Windows Installer の製品登録**と、それに対応するインストーラーのユーザーデータ。
2. **アンインストール用のレジストリ項目**。64 ビットと 32 ビットの各ビュー、および現在のユーザーのハイブが対象です。
3. **残っているアプリのファイル**。インストール先フォルダーが存在する場合に削除します。

外部のインストーラーを起動しないため、欠落したパッケージを待ったまま処理が止まることはありません。

アプリを選び、**アプリをアンインストールする** をクリックします。次に一覧を更新すると（**F5**）、対象が表示されなくなります。

➡️ アプリの削除

> **アプリ本体はインストールされたまま**
>
> 孤立したアプリは動作するプログラムがなく残存項目だけがある状態です。破損したアプリではインストーラーに問題があっても本体が動作する場合があり、削除すると実際のソフトウェアが失われます。
>
> 今後もプログラムを使うかどうかを先に判断してください。
>
> - **不要な場合**は、ここで直接削除します。通常のアンインストーラーは使用できません。
> - **使い続ける場合**はそのまま残すか、メーカーの新しいセットアップファイルで上書きインストールします。キャッシュが再作成され、管理できる状態に戻ります。

ファイルが使用中の場合

使用中のアプリでは、ファイルがロックされていることがあります。その場合は、使用中のプログラムを閉じて続行する、次回再起動時に削除する、このアプリをスキップする、のいずれかを選べます。

再起動の案内が出たら PC を再起動してください。それまでは一部のファイルが残ります。

再発を防ぐ

整理ツールが Windows Installer のキャッシュを削除すると、この問題が発生します。`%WINDIR%\Installer` のファイルは手動で削除しないでください。ソフトウェアの修復、更新、アンインストールに必要です。

整理ツールの削除対象からも `%WINDIR%\Installer` を外してください。

「不具合」ボタンが表示されない場合

不具合のスマートビューは、破損したアプリが検出された場合だけ表示されます。該当するアプリがなければ、ボタンは表示されません。

新しく検出されたアプリ

Windows の機能更新で削除済みのアプリが戻ったり、インストーラーが補助ツールを追加したり、アプリの更新でサービスが追加されたりすることがあります。

O&O AppBuster は前回のアプリ一覧を記録して、このような変化を表示します。

仕組み

セッションの終了時に検出状態を記録し、次回のスキャン結果と比較します。記録になかったアプリには、新規または変更済みの印が付きます。

該当するアプリは次の場所で確認できます。

- **新規検出** のスマートビューに表示されます。
- 一覧では **新規** の印が付きます。

ボタンは、前回の記録があり、新しいアプリが見つかった場合にだけ表示されます。初回起動時には表示されません。

どんなときに使うか

- **Windows の機能更新後。** 以前削除したアプリが再インストールされていないか確認できます。
- **ソフトウェアをインストールした後。** 目的のプログラムに加え、どのツールが導入されたかを確認できます。
- **ほかの人の PC を定期的に管理する場合。** 前回の整理から何が増えたかを確認できます。
- **日常の点検。** ときどき起動してこのビューを確認すれば、意図しない追加に早く気付けます。

確認済みにする

新しいアプリを確認した後、**すべて確認済みにする** をクリックします。

現在の状態が比較の基準として保存され、新規の印とボタンが消えます。次回は、この時点より後に追加されたものだけに印が付きます。

確認済みにしなければ印は残ります。後で見直せますが、未確認がたまると最近の変化が分かりにくくなります。

> **定期的に確認する手順**
>
> 大きな Windows 更新の後に **新規検出** を開き、不要なものを削除してから **すべて確認済みにする** をクリックします。基準が更新され、次回も変更だけを確認できます。

「新規」の判定

アプリの登録状態を比較するため、次のように扱われます。

- **新規インストール**したアプリには印が付きます。
- **削除後に Windows が再インストール**したアプリにも印が付きます。
- **更新のみ**でも、登録内容が変われば変更として検出される場合があります。
- **自分で削除**したアプリは一覧から消えます。削除に印は付きません。

「最近インストール」との違い

それぞれ基準が異なるため、表示されるアプリは一致しないことがあります。

スマートビュー	分かること	基準
最近インストール	過去 30 日に何がインストールされたか	Windows に記録されたインストール日
新規検出	前回 O&O AppBuster を使用してから何が追加されたか	前回のセッションの記録

先週確認したアプリは「最近インストール」に該当しても、新規ではありません。逆に Windows が元の日付でアプリを戻すと、古い日付でも **新規検出** に現れます。追加されたことを調べるにはこちらを使います。

設定

ファイル → 設定 で設定画面を開きます。アプリ一覧の表示項目は表示メニューで変更できます。

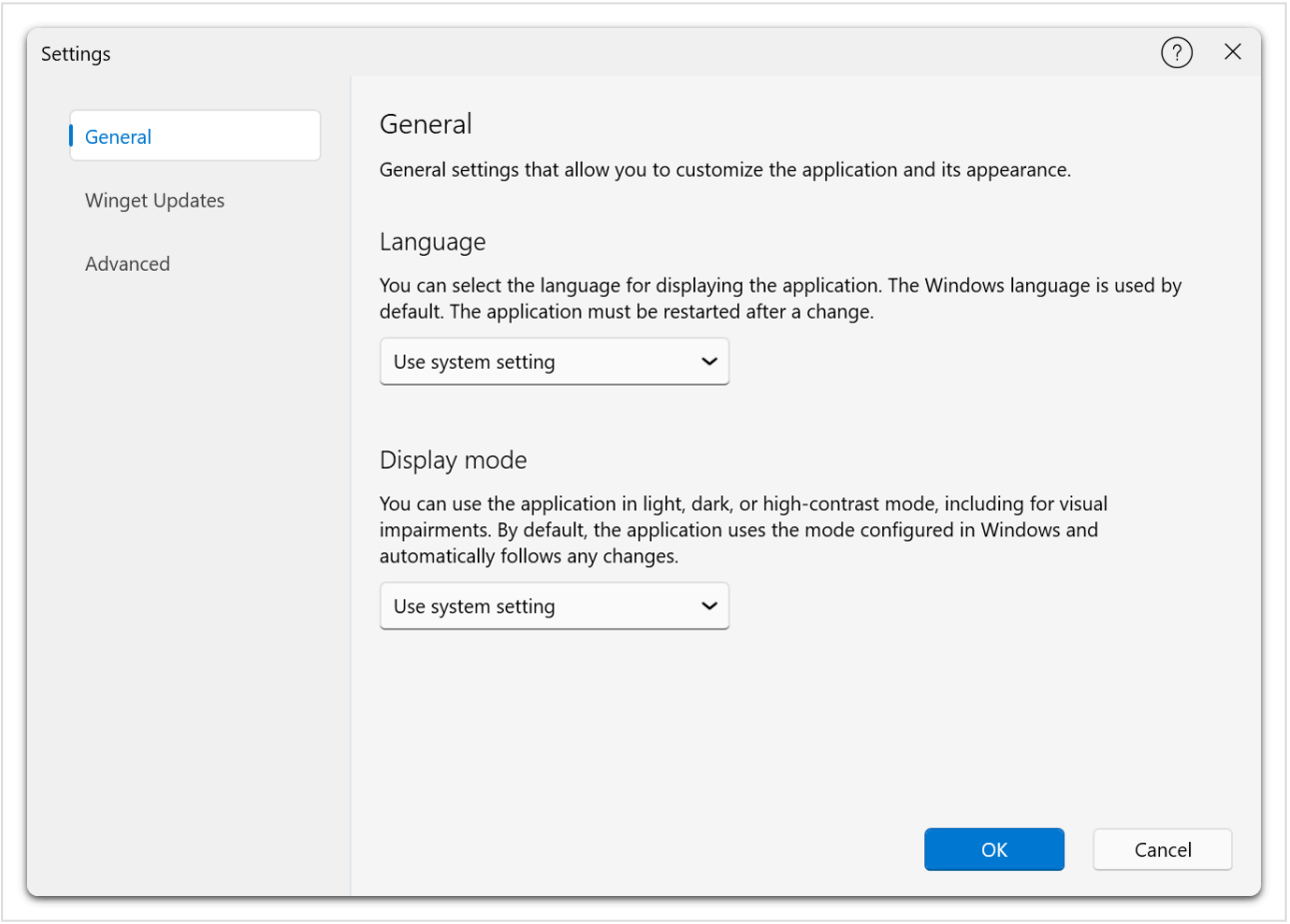
全般

言語

O&O AppBuster の表示言語は次のとおりです。

英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、日本語、中国語

既定では Windows の表示言語に従います。言語を変更するとプログラムの再起動が必要になり、すぐに再起動するかどうかを確認する画面が表示されます。



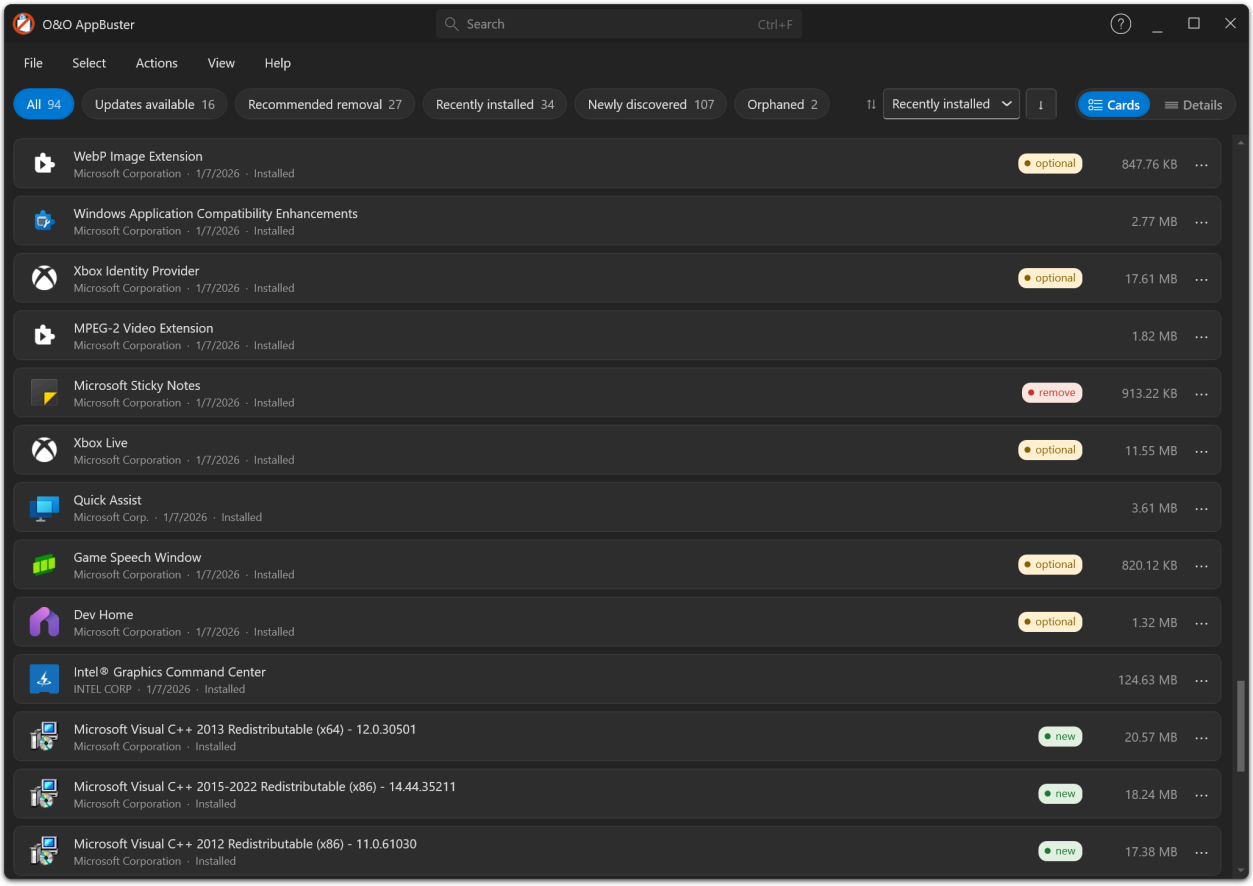
「全般」で表示言語と配色を選べます。個別に指定しなければ Windows の設定に従います。

表示モード

ウィンドウの配色を選びます。

選択肢	動作
システム設定を使用する	Windows のライト／ダーク設定に従います（既定）。
ライト	常に明るい配色にします。
ダーク	常に暗い配色にします。
ハイコントラスト（黒）	暗い背景の高コントラスト表示にします。
ハイコントラスト（白）	明るい背景の高コントラスト表示にします。

配色の変更はすぐに反映されます。



ダークモードはここで指定するほか、Windows に合わせて自動的に切り替えることもできます。

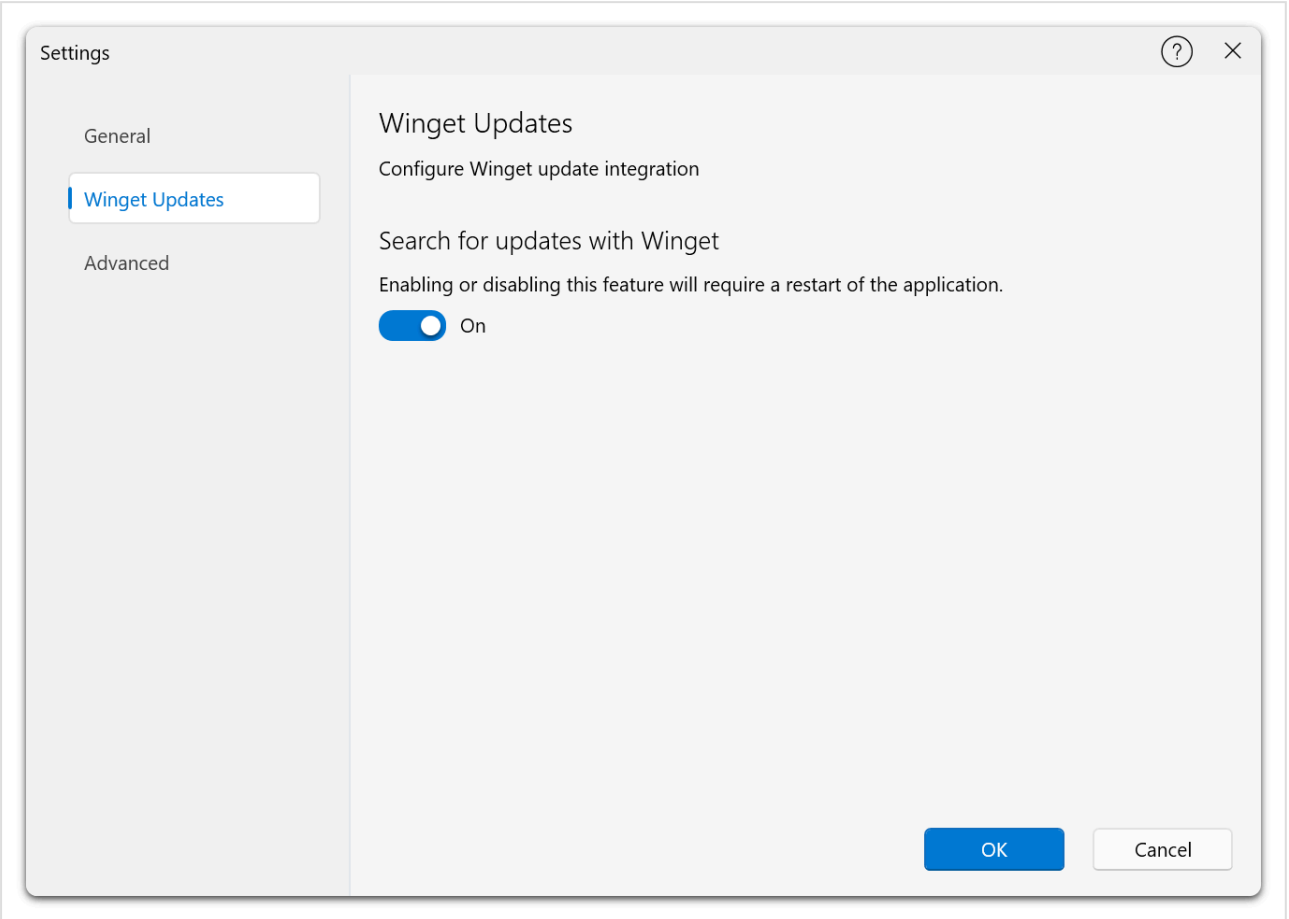
wingetによる更新

winget で更新を検索

更新機能を有効または無効にします。有効にすると、Windows パッケージ マネージャーを使って、新しいバージョンの有無をバックグラウンドで確認します。

変更を反映するには、画面の案内に従って O&O AppBuster を再起動します。

`winget` がない場合はこの設定を変更できません。Microsoft Store から**アプリ インストーラー**を追加する方法が表示されます。



バックグラウンドで更新を確認するかどうかを選びます。変更は再起動後に有効になります。

➡️ 更新

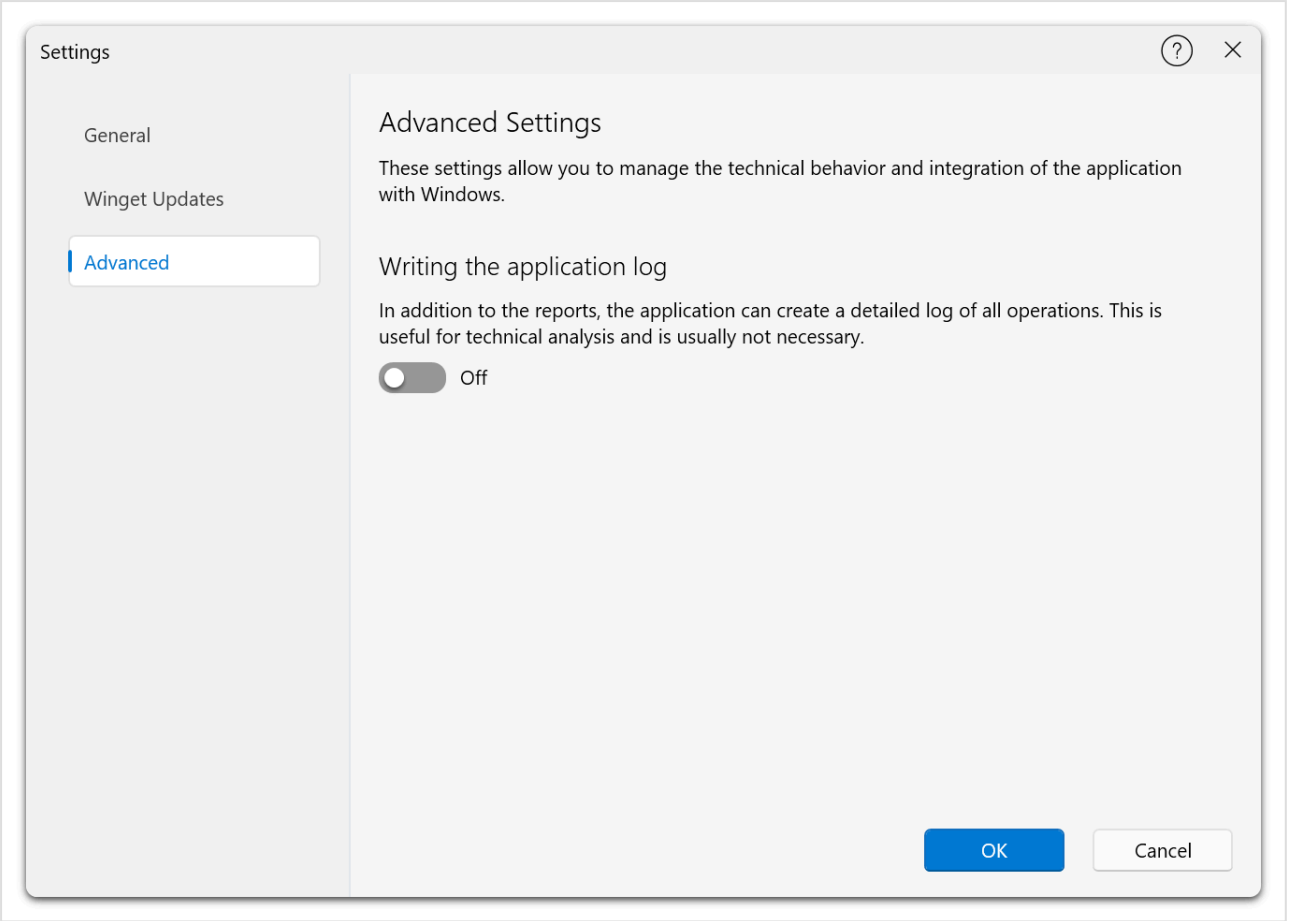
詳細

アプリケーション・ログの書き込み

O&O AppBuster の詳しい動作をログに記録できます。技術的な調査用で、既定では無効です。

ログは構成ファイルと同じフォルダーに保存されます。

```
%LocalAppData%\OO Software\OO AppBuster\OOAppBuster.log
```



詳細設定でアプリケーションログの記録を切り替えます。通常は無効のままで構いません。

サポートからログを求められた場合

ログを有効にし、O&O AppBuster を再起動して問題を再現します。ログファイルをO&O サポートに送り、調査が終わったら記録を無効に戻してください。

設定の保存先

表示言語、配色、表示形式、列、ウィンドウの位置、終了時に関連製品の案内を開くかどうかは、ユーザープロファイル内の次のファイルに保存されます。

```
%LocalAppData%\OO Software\OO AppBuster\OOAppBuster.cfg
```

O&O AppBuster はインストール不要です。設定を初期状態に戻すには、この構成ファイルを削除します。

コマンドラインパラメーター

無人実行やスクリプトでは次のパラメーターを使用できます。

パラメーター	動作
`/lang:<code>`	指定した言語で起動します。例：`/lang:de`。
`/quiet`	無人で実行し、終了時の関連製品案内も表示しません。
`/nosrp`	復元ポイント作成の確認を表示しません。
`/force`	通常は起動条件を満たさない場合も起動します。
`/ignoreos`	OS の確認を省略します。
`/exportlng`	言語リソースを書き出します。

主に管理者が自動化に使うためのパラメーターです。通常の操作は画面上で行えます。

終了時の関連製品案内

終了時に **O&O Tools for Windows** が開くことがあります。ほかの製品へのリンクと任意のニュースレター登録フォームが表示されます。製品を自動でダウンロードまたはインストールすることはありません。

今後このメッセージを表示しない を選ぶと、次回から自動では開きません。必要なときは**ヘルプ**メニューから関連製品の案内を開けます。

`/quiet` で実行した場合や、同じセッションですでに開いた場合は表示されません。表示設定とニュースレター登録の状態は上記の構成ファイルに保存されます。

➡️ サポートと O&O の関連製品

用語集

本書で使う用語を英語の原語順に掲載します。各項目から詳しい解説に移動できます。

用語	意味
操作バー	アプリを 1 件以上選ぶと一覧の上に現れ、選択件数と実行できる操作を表示します。アプリ一覧
アプリ インストーラー	Windows パッケージ マネージャー（`winget`）を提供する Microsoft Store パッケージ。更新機能に必要です。更新
ブリッジアプリ	Visual Studio Code など、MSI と Windows パッケージの両方を登録するプログラム。実際の管理方法に合わせデスクトップアプリと分類します。デスクトップアプリ
カード／詳細	カードはアプリごとに主要情報を横一列に表示し、詳細は表示項目を選べる並べ替え可能な表を表示します。アプリ一覧
破損したアプリ	MSI のキャッシュがなく、Windows から削除、修復、更新ができないプログラム。破損したアプリ
デスクトップアプリ	セットアップファイルから導入し、専用のアンインストーラーで削除する従来型の Win32／MSI プログラム。デスクトップアプリ
フレームワークアプリ	Visual C++ ランタイムなど、ほかのアプリの実行に必要なパッケージ。表示のみで削除できません。システムアプリとフレームワーク
実体のない製品登録	本体やアンインストール項目がない Windows Installer の登録。インストール済みと判断され、再導入を妨げることがあります。孤立したアプリ
非表示のアプリ	PC にあり、自分のアカウントに登録されていないため、スタートメニューや「アプリと機能」に表示されない Windows アプリ。非表示のアプリ
インストール可能	PC にファイルがあり、自分のアカウントに未登録で、O&O AppBuster から登録できる状態。アプリのインストール
新規検出	前回の使用時になかったアプリのスマートビュー。**すべて確認済みにする** で比較基準を更新できます。新しく検出されたアプリ
孤立したアプリ	削除後に残ったデータフォルダー、古いアンインストール項目、実体のない製品登録など。孤立したアプリ
事前配置されたアプリ	新規ユーザーにインストールされるよう、Windows または PC メーカーが事前に配置したアプリ。既存アカウントからは見えない場合があります。非表示のアプリ
最近インストール	Windows のインストール日を基準とする、過去 30 日にインストールされたアプリのスマートビュー。スマートビュー
推奨	「キープ」「任意」「取り除く」の 3 段階の判定。既知の一覧にないものは「キープ」です。推奨事項
削除範囲	Windows アプリの **現在のユーザー**、**全ユーザー**、またはファイルを含む **PC 全体**。デスクトップアプリには指定できません。アプリの削除

用語	意味
スマートビュー	一覧上部の件数付きボタンまたは **表示 → フィルター** から選ぶ、あらかじめ用意された絞り込み条件。スマートビュー
ステージング済みアプリ	Windows 更新やメーカーのイメージなどでファイルが展開され、まだどのユーザーにも登録されていないパッケージ。Windows アプリ
システムアプリ	シェルや設定画面など Windows 自体のコンポーネント。表示のみで削除できません。システムアプリとフレームワーク
システムの保護	復元ポイントを作成する Windows の機能。システムドライブで有効にする必要があります。システムの復元ポイント
システムの復元ポイント	システムファイル、プログラム、レジストリ設定、ドライバーの状態を戻すための記録。各セッションの最初の変更時に作成が提案されます。システムの復元ポイント
削除不可	システムアプリやフレームワークの状態。O&O AppBuster に削除の操作はありません。システムアプリとフレームワーク
ユーザー アカウント制御（UAC）	管理者権限でプログラムを実行する前に Windows が表示する確認画面。O&O AppBuster は起動時に 1 回表示します。システム要件
Windows アプリ	Windows がパッケージとして管理するストアアプリ（UWP／MSIX）。ユーザー単位または PC 全体から削除でき、再インストールも可能です。Windows アプリ
Windows Installer（MSI）	デスクトップ製品のインストールサービス。削除、修復、更新に必要なパッケージのコピーをキャッシュします。破損したアプリ
Windows パッケージ マネージャー（winget）	Windows のコマンドライン用パッケージ管理ツール。デスクトップアプリの更新を検出、インストールするために使用します。更新

トラブルシューティング

症状に該当する項目で原因と対処法を確認してください。該当しない場合はよくある質問を参照するか、O&O サポートにお問い合わせください。

プログラムの起動

起動できない、または Windows が管理者権限を要求する

原因： アプリのアンインストール、レジストリやファイルの削除、復元ポイントの作成に管理者権限が必要なため、起動時に一度確認します。

対処： Windows のユーザー アカウント制御（UAC）で **はい** を選びます。管理対象の業務 PC で権限がなければ起動できません。管理者に相談してください。

➡️ システム要件

ダウンロードしたプログラムがツールバーなどを勧める

原因： 公式版に追加ソフトウェアは付属しません。ほかの製品を勧める同梱版は第三者が再包装したものです。

対処： そのパッケージを削除し、O&O AppBuster 製品ページから入手してください。同梱版の入手先は O&O サポートにお知らせください。

➡️ 無償ライセンス

アプリ一覧

スキャンに時間がかかる

原因： Windows パッケージと複数のレジストリを調べるため、デスクトッププログラムが多いほど時間がかかります。容量はその後バックグラウンドで計算します。

対処： 一覧の上の検出数がスマートビューのボタンに切り替わるまで待ちます。その後数秒間、**ストレージ**の値が変わるのは正常です。

➡️ アプリ一覧

一覧が予想より短い

原因： **表示** の設定で Microsoft 製、システム／フレームワーク、またはインストール可能なアプリを非表示にしていることがあります。

対処： 一覧の上で **すべて表示** をクリックするか、**表示** で該当する設定を有効にします。

➡️ アプリ一覧

削除対象に選べないアプリがある

原因： システムアプリやフレームワークアプリは Windows やほかのプログラムに必要なため、状態は「削除不可」で、情報だけが表示されます。

対処： 削除する必要はありません。一覧から隠すには **表示 → システムアプリとフレームワークアプリを表示** をオフにします。

➡️ システムアプリとフレームワーク

孤立、破損、または更新のボタンがない

原因： 該当するアプリがある場合にだけボタンを表示します。**利用可能な更新** には、更新機能が有効で、Windows パッケージ マネージャーがインストールされていることも必要です。

対処： **孤立** や破損のボタンがなくても、該当するアプリがないだけです。**利用可能な更新** がない場合は更新機能が使えない場合をご覧ください。

➡️ スマートビュー

アプリの削除

ファイルが使用中でアプリがスキップされた

原因： 実行中のプログラムがアプリのファイルを開いています。

対処： 確認画面で次のいずれかを選びます。

1. **これらのプログラムを終了して削除**：使用中のプログラムを終了して再試行します。先に編集中の内容を保存してください。
2. **次回の再起動時に削除**：次回の Windows 起動時に削除します。PC を再起動して処理を完了してください。
3. **このアプリをスキップ**：今回はそのまま残します。後で **スキップした項目を再試行** を選ぶと再試行できます。

➡️ アプリを削除する

削除できなかったという理由でスキップされた

原因： Windows 自体がアプリを保護しています。

対処： O&O AppBuster では削除できません。Windows がアンインストール操作を提供する場合は、先に復元ポイントを作成してから Windows の機能を使用してください。

➡️ アプリを削除する

削除中に別のウィンドウで確認を求められる

原因： デスクトップアプリの専用アンインストーラーが起動し、独自の画面を表示しています。

対処： その画面の案内に従います。O&O AppBuster は終了を待ち、複数選択していれば次のアプリに進みます。

➡️ デスクトップアプリ

削除範囲を選べない

原因： 選択対象にデスクトップアプリが含まれています。ユーザー別の削除範囲は Windows アプリにだけ適用されます。

対処： 特別な操作は不要です。範囲指定は Windows アプリに適用され、デスクトップアプリは専用のアンインストーラーで削除されます。

➡️ アプリを削除する

選択件数が予想より多い

原因： スマートビューを切り替えても、別のビューで選択したアプリは選択されたままです。

対処： 確定前に操作バーの件数を確認し、多すぎる場合は **すべて選択解除** で選び直してください。

➡️ スマートビュー

Windows の更新後に削除済みのアプリが戻った

原因： Windows の機能更新時に、標準構成とみなされるアプリが再インストールされることがあります。

対処： 更新後に **新規検出** のスマートビューを開きます。戻ったアプリを確認し、不要なものを再度削除できます。

➡️ 新しく検出されたアプリ

アンインストールしたプログラムを再インストールできない

原因： 実体のない Windows Installer の登録が残り、Windows がインストール済みと判断していることがあります。

対処： **孤立** のスマートビューでプロパティを確認します。該当する登録を削除してから、セットアップファイルをもう一度実行します。

➡️ 孤立したアプリ

Windows からプログラムの削除、修復、更新ができない

原因： Windows Installer のパッケージキャッシュが欠落しています。整理ツールによる削除などが考えられます。

対処： スマートビュー「不具合」で対象を確認します。不要ならそこで削除し、使い続けるならメーカーの最新セットアップファイルで上書きインストールしてキャッシュを作り直します。

➡️ 破損したアプリ

アプリのインストール

Windows アプリをインストールできない

原因： エラーはアプリごとに表示され、ほかのアプリの処理は続きます。主な原因は次のとおりです。

- **PC 全体** を対象にファイルを含めて削除した後など、パッケージが PC に残っていない。
- 管理対象 PC のポリシーでアプリのインストールが制限されている。
- パッケージが破損している。

対処： Windows に付属するストアアプリは Microsoft Store で検索し、ストアから再インストールしてください。

➡️ アプリのインストール

デスクトップアプリを O&O AppBuster から再インストールできない

原因： ここでインストールできるのは Windows アプリです。アンインストール済みのデスクトップアプリはファイルが削除されています。

対処： 製品のセットアップファイルを使って再インストールします。

➡️ デスクトップアプリ

システムの復元ポイント

システムの保護が無効と表示される

原因： 復元ポイントを作成するには、システムドライブの保護が必要です。メーカー出荷時の設定などで無効になっていることがあります。

対処： **コントロール パネル → システムとセキュリティ → システム → システムの保護**でドライブ `C:` の**構成**を開き、保護を有効にしてから作成し直します。

➡️ システムの復元ポイント

復元ポイントを作成できない

原因： 次の点が考えられます。

- **ディスクの空き容量**：復元ポイント用の容量が残っていなければ作成できません。
- **サービス**：Volume Shadow Copy など、システムの復元に必要なサービスが停止しています。

- **作成頻度**：Windows には作成頻度の制限があり、作成直後に続けて実行すると通知なく省略される場合があります。
- **権限**：管理者権限が必要です。通常 O&O AppBuster は管理者として起動するため、権限不足はまれです。

対処： 上記を順に確認し、**操作 → システムの復元ポイントを作成** で再試行します。

➡️ システムの復元ポイント

更新

更新機能が使えない

原因： 更新には Microsoft Store の「アプリ インストーラー」に含まれる Windows パッケージ マネージャー（`winget`）が必要です。ない場合は設定が無効になり、理由が表示されます。

対処： Microsoft Store から**アプリ インストーラー**を追加し、**ファイル → 設定 → wingetによる更新 → winget で更新を検索** をオンにして O&O AppBuster を再起動します。

➡️ 更新

一部のアプリの更新に失敗する

原因： 更新を実行する Windows パッケージ マネージャーで、起動中のアプリ、配布元の一時的な障害、登録名とカタログ名の不一致などにより失敗することがあります。

対処： アプリを閉じて再試行します。改善しなければ、発行元が案内する方法で更新してください。

➡️ 更新

更新が一度も表示されないアプリがある

原因： ストアアプリは Microsoft Store が更新します。ポータブル版や社内ツールなど、winget に登録されていないアプリも対象外です。

対処： ストアアプリは Microsoft Store、ほかの製品はそれぞれの更新機能を使います。

➡️ 更新

その他

終了するたびに関連製品の案内が開く

原因： **O&O Tools for Windows** は、無効にするまで終了時に自動で表示されます。

対処： 案内画面で **今後このメッセージを表示しない** を選びます。自動表示を止めても、**ヘルプ**メニューから手動で開けます。

➡️ サポートと O&O の関連製品

サポートからログを求められた

原因： ログは技術調査用で、既定では記録されません。

対処： **ファイル → 設定 → 詳細 → アプリケーション・ログの書き込み** を有効にし、再起動後に問題を再現して `%LocalAppData%\OO Software\OO AppBuster\OOAppBuster.log` を送付します。調査後はログを無効に戻します。

➡️ 設定

設定を初期化したい

原因： 設定はユーザープロファイルの構成ファイルにまとめて保存されています。

対処： O&O AppBuster を閉じ、`%LocalAppData%\OO Software\OO AppBuster\OOAppBuster.cfg` を削除します。次回は既定の設定で起動します。

➡️ 設定

よくある質問

全般

無料で使えますか？

はい。使用期限や登録はなく、台数の制限もありません。無償ライセンスを参照してください。

Pro、Premium、Enterprise 版はありますか？

エディションは本書で説明する 1 種類のみです。「O&O AppBuster Pro」などの有償版を扱うサイトは O&O のものではありません。

終了時には、ほかの O&O 製品へのリンクと任意のニュースレター登録フォームが表示されることがあります。サポートと O&O の関連製品を参照してください。

インストールは必要ですか？

不要です。単一の実行ファイルをダウンロードして起動し、不要になったら削除できます。通常、設定はユーザープロファイル内の 1 ファイルに保存されます。

対応する Windows は？

x64 または ARM64 の Windows 10／11 に対応します。それ以前の Windows は、必要なアプリ基盤がないため対象外です。システム要件を参照してください。

追加のソフトウェアをインストールしますか？

いいえ。ツールバーや「最適化」ツールなどを勧めるインストーラーは、第三者が再包装したものです。そのような場合は入手先をお知らせください。

バックグラウンドに常駐しますか？

開いている間だけ動作します。サービス、スケジュールタスク、自動起動項目を追加しません。

プログラムの起動

なぜ管理者権限が必要ですか？

アプリの削除、レジストリやファイルの削除、復元ポイントの作成に必要です。起動時に権限を取得するため、O&O AppBuster の UAC 確認は操作ごとではなくセッションごとに 1 回です。

管理者権限なしで使えますか？

いいえ。管理者権限がなければ起動できません。

スキャンに時間がかかるのは異常ですか？

Windows パッケージと複数のレジストリを列挙するため、デスクトップアプリが多い PC では時間がかかります。容量はその後バックグラウンドで計算され、**ストレージ**列に順次表示されます。

インターフェイスで選べる言語は？

英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、日本語、中国語です。**ファイル → 設定 → 全般** で言語を変更し、再起動すると反映されます。

アプリ一覧

Windows の「アプリと機能」より件数が多いのはなぜですか？

システムアプリ、フレームワーク、非表示のアプリ、ステージング済みパッケージ、過去の削除で残った項目を含み、Windows の一覧が参照しないレジストリも調べるためです。アプリの種類を参照してください。

一覧の件数が予想より少ない場合は？

表示 メニューで Microsoft 製アプリやシステム／フレームワークアプリなどが非表示になっていないか確認します。一覧の上に件数が表示され、**すべて表示** で再表示できます。

アンインストールできないアプリがあるのはなぜですか？

Windows やほかのプログラムが必要とするシステムアプリやフレームワークは表示専用で、状態が「削除不可」になります。システムアプリとフレームワークを参照してください。

「キープ」「任意」「取り除く」の違いは？

「取り除く」はほかのアプリが依存していない削除候補、「任意」は削除可能で利用者が判断するもの、「キープ」は保持を勧めるものです。分類に十分な情報がない場合も「キープ」です。推奨事項を参照してください。

使っていないアプリに「キープ」と表示されるのはなぜですか？

認識できないアプリを推測で削除候補にすることはありません。残すと容量を消費しますが、誤って削除すればほかの機能に影響するためです。プロパティを確認して判断してください。

容量の大きいアプリを探すには？

ストレージの降順で並べ替えます。**削除推奨** と組み合わせれば、まとまった容量を回収できる候補を探せます。

アプリを削除する

削除を取り消せますか？

O&O AppBuster に直接取り消す操作はありません。次の方法を利用できます。

- **Windowsアプリ**：O&O AppBuster で再インストールするか、Microsoft Store から入手します。
- **デスクトップアプリ**：製品のセットアップファイルから再インストールします。
- **システム全体**：事前に作成したシステムの復元ポイントを使用します。

3 種類の削除範囲の違いは？

現在のユーザー は自分だけ、**全ユーザー** は PC 上のすべてのアカウントから削除します。**PC 全体** を選ぶと残存ファイルも削除するため、最も多くの空き容量を確保できます。アプリの削除を参照してください。

削除範囲を選べないアプリがあるのはなぜですか？

デスクトップアプリは専用アンインストーラーを使うため、O&O AppBuster のユーザー別の削除範囲は適用されません。対象に含まれると確認画面に表示されます。

削除中に別のウィンドウが開くのはなぜですか？

デスクトップアプリの専用アンインストーラーです。サービス、ドライバー、ファイル関連付けなどを適切に処理するため、O&O AppBuster はその終了を待ちます。必要な確認には画面で応答してください。

使用中のファイルがありスキップされた場合は？

これらのプログラムを終了して削除、**次回の再起動時に削除**、**このアプリをスキップ** のいずれかを選びます。再起動時の削除を選んだら、PC を再起動して処理を完了してください。

削除した内容を記録できますか？

結果画面の **ログを保存…** で、削除範囲、削除済みのアプリ、スキップしたアプリと理由を保存できます。

Windows の更新後、削除したアプリが戻りました

機能更新で Windows の標準アプリが再インストールされることがあります。更新後に **新規検出** のスマートビューを開き、再び追加されたアプリを確認してください。

残存項目、孤立したアプリ、破損したアプリ

「孤立したアプリ」とは？

アンインストール後に残ったデータフォルダー、レジストリ、製品登録です。容量を消費したり、再インストールを妨げたりします。孤立したアプリを参照してください。

「破損したアプリ」とは？

MSI パッケージのキャッシュが欠落したプログラムです。本体は動作する場合がありますが、Windows は削除、修復、更新を行えません。破損したアプリを参照してください。

孤立した項目を削除しても安全ですか？

多くの場合は削除できますが、専用のアンインストーラーを使わずに直接削除するため、慎重に判断してください。先にシステムの復元ポイントを作成し、各項目のプロパティで判定の**確度**を確認して 1 件ずつ処理します。

使用中の製品のアドイン、プラグイン、サービス、補助ツールと思われるものは、インストール済み製品の一部かもしれないため、とくに注意してください。

「孤立」や「不具合」のボタンが表示されません

該当する項目が見つからなかったためです。異常ではありません。

アンインストールしたのに再インストールできないのはなぜですか？

実体のない Windows Installer の製品登録が残り、インストール済みと認識される場合があります。**孤立** のスマートビューで該当する登録を確認し、それを削除すると通常は解消します。

更新

更新機能が使えません

Windows パッケージ マネージャー（ `winget` ）が必要です。見つからない場合は設定が無効になり、理由が表示されます。Microsoft Store から**アプリ インストーラー**を追加してください。

一部の更新だけ失敗したのはなぜですか？

更新は Windows パッケージ マネージャーが実行します。対象アプリが起動中、発行元の配布が一時停止中、Windows に登録された名前では winget のカタログに該当しない、などの理由があります。

更新を自動的にインストールできますか？

O&O AppBuster は指示したときだけ更新し、常駐はしません。Windows で自動化するには、スケジュールタスクで `winget upgrade --all` を実行する方法があります。

ストアアプリも更新しますか？

いいえ。Microsoft Store が更新します。

データとプライバシー

設定の保存先は？

ユーザープロファイルの次のファイルです。

```
%LocalAppData%\OO Software\OO AppBuster\OOAppBuster.cfg
```

このファイルを削除すると初期設定に戻ります。

ログファイルはどこですか？

ファイル → 設定 → 詳細 でログを有効にした場合に限り、構成ファイルと同じフォルダーに `OOAppBuster.log` が作成されます。既定では無効です。

データが送信されることはありますか？

指定した場合はオンラインで新しいバージョンを確認します。製品案内のリンクはブラウザーで開き、ニュースレターのメールアドレスは **登録** を選んだ場合だけ送信されます。PC のアプリ一覧は送信しません。

Windows のプライバシー設定を変更しますか？

O&O AppBuster はアプリのみを管理します。Windows のプライバシー設定には別製品 O&O ShutUp10 があります。サポートと O&O の関連製品を参照してください。

サポート

終了時に製品案内を表示しないようにするには？

案内画面で **今後このメッセージを表示しない** を選びます。自動表示を止めた後も、**ヘルプ**メニューから関連製品案内を開けます。

サポートを受けるには？

- **ヘルプ → オンラインヘルプ** または **F1** で本書を開けます。トラブルシューティングではよくある問題と対処法を紹介しています。
- O&O サポートページもご利用ください。

問題を問い合わせる際は **ファイル → 設定 → 詳細** でログを有効にし、問題を再現して `OOAppBuster.log` を添付してください。

使用中のバージョンを調べるには？

ヘルプ → このアプリについて を開きます。Windows のシステム情報も表示され、**新バージョンをオンラインでチェック** を実行できます。

サポートと O&O の関連製品

O&O AppBuster の問い合わせ先、フリーウェアの利用条件と更新方法、O&O の関連製品を紹介します。

サポート

- **本書**は **ヘルプ → オンラインヘルプ** または **F1** で開けます。トラブルシューティングで問題の原因と対処法を、よくある質問でよく尋ねられる事項を確認できます。
- **O&O サポート**：O&O サポートページに問い合わせ先があります。

問題を問い合わせる前に、次の準備をしてください。

1. **ファイル → 設定 → 詳細** でログを有効にします。
2. O&O AppBuster を再起動して、問題を再現します。
3. ログファイル `OOAppBuster.log`（保存先：`%LocalAppData%\OO Software\OO AppBuster\`）を問い合わせに添付します。
4. **ヘルプ → このアプリについて** のバージョン番号を書き添えます。

➡️ 設定

ライセンスと更新

O&O AppBuster はフリーウェアです。ライセンスキー、登録、有償版はありません。適用されるエンドユーザー使用許諾契約は **ヘルプ → このアプリについて** で確認できます。

- **O&O AppBuster 自体の更新**は **ヘルプ → このアプリについて** の **新バージョンをオンラインでチェック** から確認できます。製品ページで新版をダウンロードして起動してください。インストール済みのプログラムを更新する手順は不要です。
- **PC のアプリの更新**には、Windows パッケージ マネージャーを使います。更新を参照してください。

O&O Tools for Windows

終了時に別ウィンドウで **O&O Tools for Windows** が開くことがあります。関連製品を確認したり、無料ニュースレターに登録したりできます。

> **掲載製品は別製品です**
>
> 製品を選ぶとブラウザーで公式サイトが開きます。O&O AppBuster が掲載製品を自動的にダウンロードまたはインストールすることはありません。

製品案内を開く

終了時に自動で開くほか、**ヘルプ**メニューから手動で開けます。

自動表示は 1 セッションに 1 回までです。次の場合は自動で開きません。

- 現在のセッションですでに案内を開いた場合。
- 以前 **今後このメッセージを表示しない** を選んだ場合。
- `/quiet` を指定して起動した場合。

今後このメッセージを表示しない は終了時の自動表示だけを無効にします。ヘルプメニューからは引き続き開けます。

O&O 製品を探す

案内には次のような Windows 用の製品が掲載されています。

製品	用途
O&O Syspectr	PC とサーバーのリモート監視・管理。
O&O DiskImage	ドライブとシステム全体のバックアップ・復元。
O&O Defrag	PC とサーバーのストレージ最適化。
O&O DiskRecovery	削除ファイルや破損したファイルシステムからのデータ復旧。
O&O ShutUp10	Windows のプライバシー設定の管理。
O&O SafeErase	ファイルの完全消去と空き領域に残るデータの消去。

製品カードを選ぶとブラウザーで製品サイトが開きます。O&O の全製品も参照できます。

O&O ニュースレターの登録

ウィンドウ下部に任意の登録フォームがあります。

1. メールアドレスを入力します。
2. **登録** を選びます。
3. 確認メールを開き、案内に従って登録を確定します（二段階の確認）。

送信前にアドレスの形式が検証されます。受付後に確認メッセージが表示され、次に案内を開いたときは登録済みとして表示されます。

アドレスの取り扱いは画面のプライバシーに関する説明で確認できます。登録内容の変更や解除は、いつでも O&O ニュースレターのページから行えます。

登録は任意で、O&O AppBuster の機能には影響しません。